

立川市の環境についての アンケート集計結果報告書

令和6年2月
立川市

目次

1 調査の概要	1
1-1 目的	1
1-2 調査対象・調査方法	1
1-3 調査項目	2
2 市民アンケート調査の結果	3
1	3
2-1 回答者の属性について	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 居住年数	3
(4) 居住地区	4
(5) 居住形態	4
(6) 世帯構成	4
(7) 自動車所有台数	4
2-2 立川市の環境に対する考えや認識について	5
(1) 環境問題に対する姿勢	5
(2) 立川市の将来の理想的な環境イメージ	6
(3) 将来に向けて残したい身近な自然や環境	7
2-3 立川市の環境の満足度と重要度について	9
(1) 立川市の環境に対する満足度	9
(2) 立川市の環境に関する重要度	11
(3) 立川市の環境に対する満足度と重要度の関係	13
2-4 環境に関する取組状況について	15
(1) 環境に関する取組状況	15
(2) 環境に関する取組を今後も行わない理由	18
(3) 地球温暖化対策設備機器の導入状況	19
(4) 地球温暖化対策設備機器を導入しない理由	21
(5) 市の環境情報の入手方法	22
2-5 自由意見	24
3 事業者アンケート調査の結果	27
3-1 事業所の属性について	27
(1) 業種	27
(2) 従業員規模	27
(3) 所在地	28
(4) 建物の形態	28
(5) 立川市での事業年数	28
3-2 立川市の環境に対する考えや認識について	29
(1) 環境保全への取組に対する考え方	29

3-3 事業所の環境活動について	30
(1) 事業所で取り組んでいる環境活動	30
(2) 地球温暖化対策設備機器の導入状況	33
3-4 環境活動における効果と課題について	35
(1) 環境活動で得られた効果	35
(2) 環境活動を進めるにあたっての課題	36
3-5 望ましい支援について	37
(1) 市が実施すると望ましいサポート	37
(2) 市の環境情報の入手方法	38
3-6 地域の環境活動について	39
(1) 取り組んでいる地域環境活動	39
(2) 協力、支援できる活動分野	40
(3) 協力、支援できる取組	41
3-7 自由意見	42
4 調査結果のまとめ	43
4-1 市民意識調査結果	43
4-2 事業者意識調査結果	45
巻末資料	1
1 市民クロス集計結果	2
2 アンケート調査票（市民向け）	資-14
3 アンケート調査票（事業者向け）	資-22

1 調査の概要

1-1 目的

立川市では、平成 27 年度に「立川市第 2 次環境基本計画」を策定し、環境の保全及び創造と地球温暖化対策に関する施策を推進してきました。

このたび、現計画の期間が満了を迎えることと、気候変動対策など昨今の国内外の動向の変化を受け、令和 7 年度を初年度とする「立川市第 3 次環境基本計画及び立川市地球温暖化対策実行計画（事務事業編・区域施策編）」を策定することとなりました。

新たな計画を策定するにあたり、市民と事業者の皆様から、環境に関する取組状況などをお伺いするため、アンケート調査を実施しました。

1-2 調査対象・調査方法

	市民	事業者
調査対象	立川市に住む満 16 歳以上の 2,000 人	立川市内の事業所 400 か所
抽出法	「住民基本台帳」からの 無作為抽出	市内事業所からの抽出
調査方法	配付方法：調査票の郵送 回収方法：返信用封筒による郵送及び WEB 回答	
調査期間	令和 5 年 9 月 16 日～10 月 6 日	
配布数	2,000	400
回収数 (うち WEB 回答数)	583 (156)	112 (30)
回収率	29.2%	28.0%

<参考：年齢別回収率>

年齢	発送数	回収数	回収率
16~19	77	13	16.9%
20~29	304	50	16.4%
30~39	317	86	27.1%
40~49	378	98	25.9%
50~59	406	114	28.1%
60~69	243	102	42.0%
70~	275	118	42.9%
不明		2	
合計	2,000	583	29.2%

1-3 調査項目

市民	事業者
①環境問題への姿勢	①環境保全への取組への考え方
②将来の理想的な環境イメージ	②事業所の環境活動と今後の予定
③将来に向けて残したい身近な自然や環境	③地球温暖化対策設備導入状況及び今後の意向
④立川市の環境の満足度と重要度	④環境活動における効果と課題
⑤普段取り組んでいる環境に関する取組、今後の予定	⑤市が実施すると望ましいサポート
⑥地球温暖化対策設備導入状況及び今後の意向	⑥環境情報の入手方法
⑦環境情報の入手方法	⑦地域での環境活動、協力・支援できる分野、取組

※集計にあたっての留意点

- ・回答結果は、小数点第2位を四捨五入のうえ割合を示しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、全体の回答数に対する割合を示しているため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・数表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数（有効回答者数）を示しています。
- ・各設問において、回答の記入がないもの、回答が識別できないものについては、「不明」として扱っています。

※前回調査との比較について

- ・本調査結果の分析を行うにあたり、平成30年度に実施された「立川市第2次環境基本計画」中間見直し時のアンケート調査結果を前回調査結果として比較を行っています。

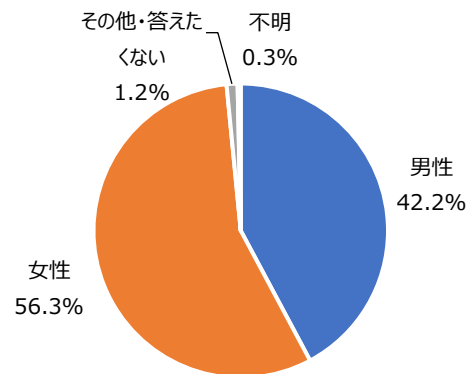
※クロス集計について

- ・本調査結果の分析を行うにあたり、市民アンケートについては年齢やその他設問間のクロス集計で有意差がみられたもののうち、主だったものを分野ごとに参考資料として、巻末資料に掲載しています。

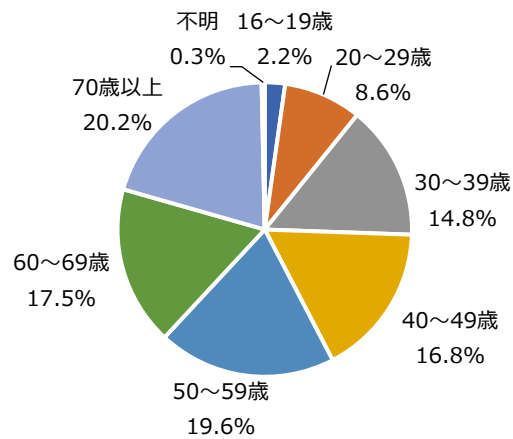
2 市民アンケート調査の結果

2-1 回答者の属性について

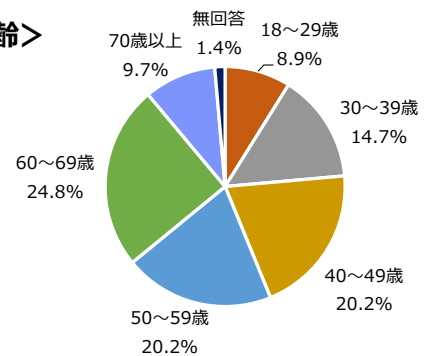
(1) 性別



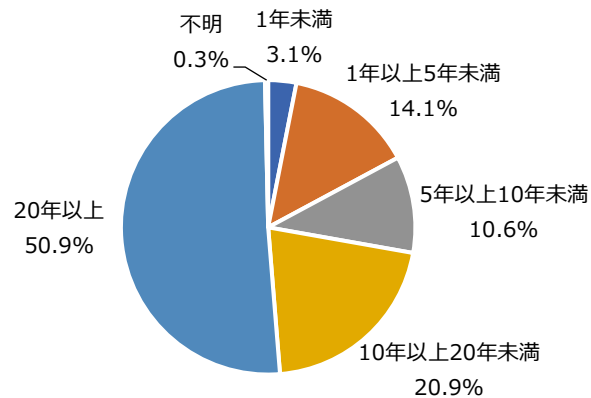
(2) 年齢



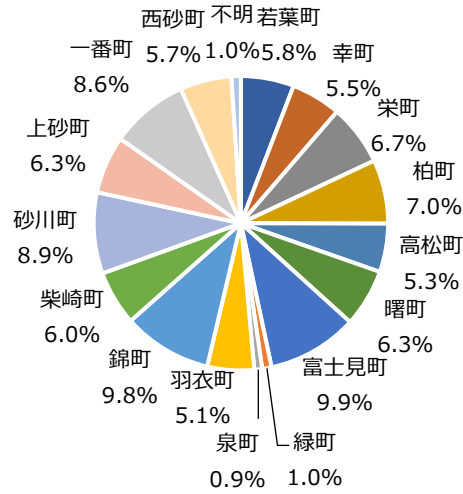
<参考：前回調査回答年齢>



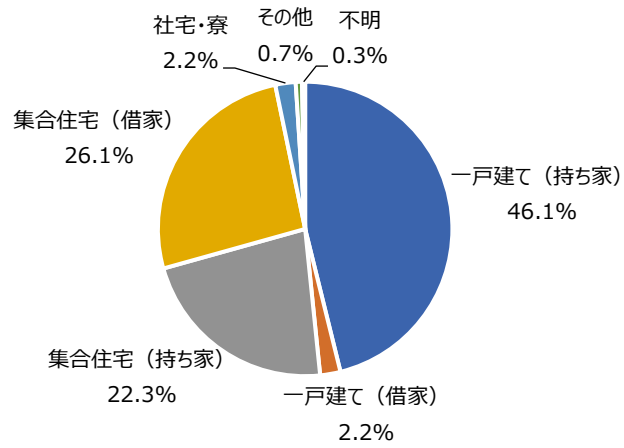
(3) 居住年数



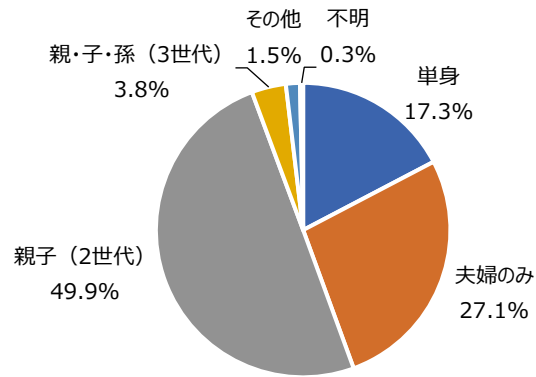
(4) 居住地区



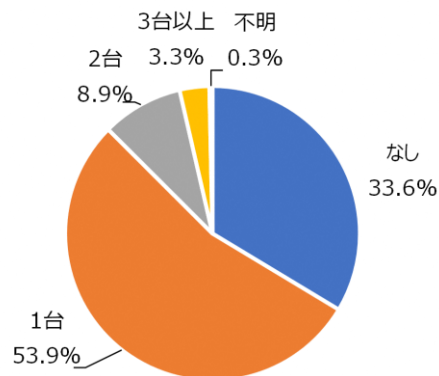
(5) 居住形態



(6) 世帯構成



(7) 自動車所有台数



2-2 立川市の環境に対する考えや認識について

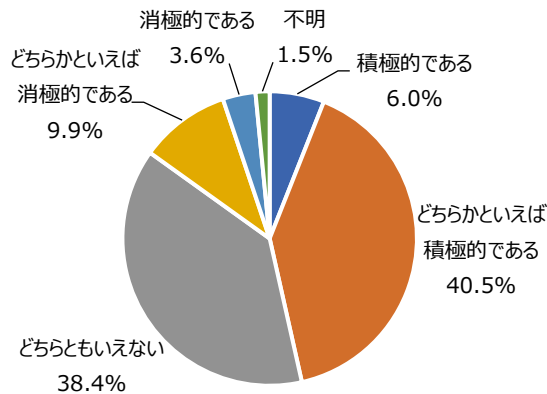
(1) 環境問題に対する姿勢

問8 あなたは環境問題に対して積極的に取り組んでいると思いますか。あてはまる番号1つを○で囲んでください。

環境問題に対して積極的に取り組んでいるかを聞いたところ、「どちらかといえば積極的である（40.5%）」が最も多く、次いで、「どちらともいえない（38.4%）」、「どちらかといえば消極的である（9.9%）」と続いています。

年齢別での傾向をみたところ、50代以上の年代で「積極的である」、「どちらかといえば積極的である」を合わせた回答割合が5割以上である一方、20代～40代では4割前後、10代では2割に満たない結果となっており、比較的若い世代では低い傾向がうかがえます。

前回の平成30年度の調査結果と比較すると、「積極的である」、「どちらかといえば積極的である」を合わせた回答割合が47.2%（平成30年度）から46.5%（令和5年度）と微減している一方、「消極的である」、「どちらかといえば消極的である」を合わせた回答割合が11.1%（平成30年度）から13.6%（令和5年度）に増加しています。



<前回調査との比較>

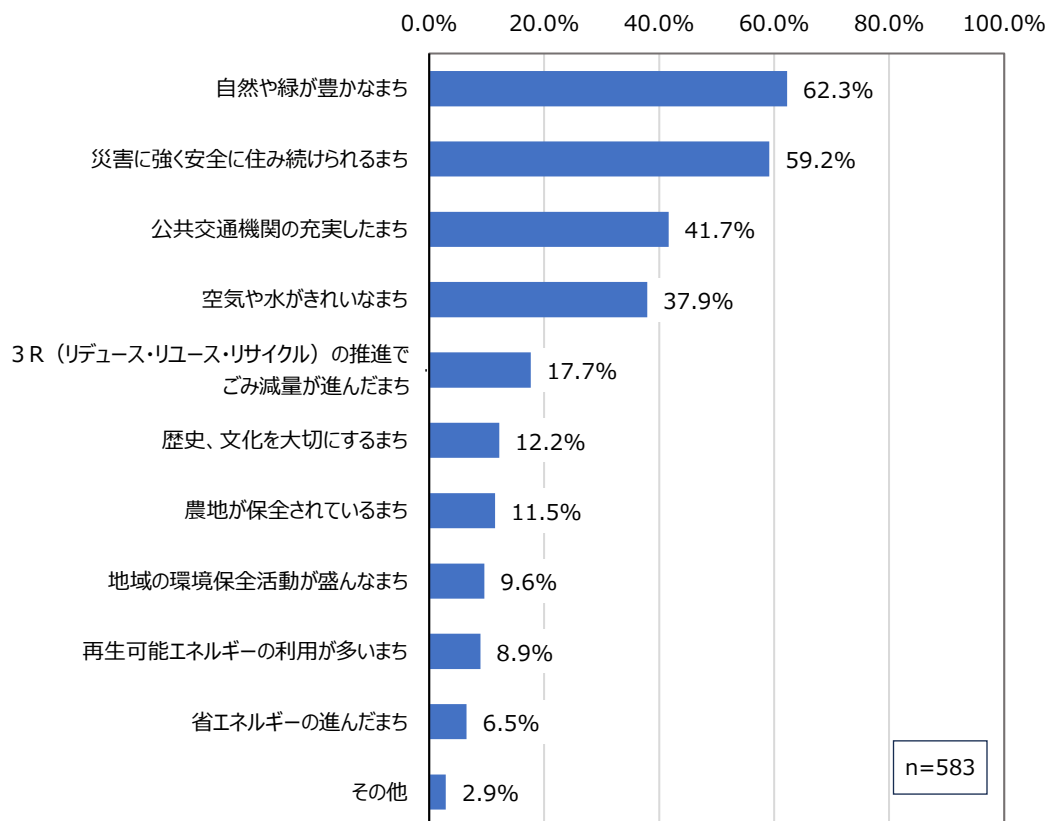
NO.	カテゴリー名	令和5年度	平成30年度
1	積極的である	6.0%	5.8%
2	どちらかといえば積極的である	40.5%	41.3%
3	どちらともいえない	38.4%	40.4%
4	どちらかといえば消極的である	9.9%	8.7%
5	消極的である	3.6%	2.4%
	不明	1.5%	1.4%
	全体	100.0%	100.0%

※端数を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

(2) 立川市の将来の理想的な環境イメージ

問9 立川市の将来の理想的な環境イメージについて、あなたの考えに近いものは何ですか。あてはまる番号を3つまで○で囲んでください。

将来の理想的な環境イメージについて聞いたところ、「自然や緑が豊かなまち(62.3%)」が最も多く、次いで、「災害に強く安全に住み続けられるまち(59.2%)」、「公共交通機関の充実したまち(41.7%)」、「空気や水がきれいなまち(37.9%)」の回答が多くなっています。



◆その他回答 (抜粋)

- 商業施設、公共施設、自然の調和のとれたまち
- 人にやさしいまち
- 騒音が少ないまち
- ゴミの分別が少ない街
- 路上や公園での飲酒喫煙のないまち
- 原発も含めた安価かつ安定したエネルギー供給の確保

など

(3) 将来に向けて残したい身近な自然や環境

問10 立川市内の身近な自然や環境で、将来に向けて残したい場所がある場合は、具体的な地名とその理由をご記入ください。

立川市内の身近な自然や環境で、将来に向けて残したい場所を聞いたところ、延べ509件の回答がありました。

地名	件数	理由（抜粋）
昭和記念公園	133	緑が多く自然豊か。立川市のシンボル。世代を問わず楽しめる。四季折々の植物を楽しめる。憩いの場。空気がきれい。
玉川上水と緑道・緑地	121	澄み切った水のせせらぎと緑に癒される。ホタルが住むきれいな小川。豊かな自然と生態系を楽しみながら散歩できる場所。
根川緑道・桜並木	62	桜並木の美しさ。桜や緑の木々に、水の流れるに癒される。カワセミ・シラサギなど野鳥が多く飛来する。四季を感じる。
残堀川・桜並木	20	春は桜に菜の花が満開。野鳥（カワセミやサギ）が飛び回っている。ホタルがいる。自然を残したい・埋める理由はない。
諏訪の森公園・諏訪神社	19	閑静な森につつまれた場所。立川の祭り文化や伝統、歴史を守るために環境整備や保護を継続して欲しい。緑豊かで子供も遊べる。
多摩川緑地・河川敷	18	朝の鳥のさえずり。海がない立川で、広くて気持ちがいいところ。緑にふれて散歩ができる。自然環境が整備されている。
栄緑地・遊歩道	15	緑が多く、癒される。車の通行を気にせず散歩できる。自然環境が整備されている。
矢川緑地	12	湧き水のキレイな川。豊かな生態系に恵まれた場所。樹林地が広がる癒しの場所。緑が豊かでリフレッシュできる。
農地・農家 (農業試験場、市民農園、西砂町周辺の畑など含む)	10	解放され、四季の花・緑に気持ちが休まる。土に親しみ、体の健康管理に役立つ。立川市でとれた野菜や果物をいただきたい。
グリーンスプリングス	9	都市と緑化の融合施設。文化と自然の共生を感じられ、対外的にも非常に魅力的なエリア。緑豊かで落ちついている。
公園全般	8	子ども達に残してあげたい。これ以上無くしてほしくない。
桜並木 (中央南北線、泉体育館、柴崎町～富士見町など含む)	7	四季を感じる事ができる。桜がきれい。夏は木陰ができて涼しい。
ガニガラ広場・公園・田んぼ	5	憩いの場。四季が楽しめる。本物の水田を子供たちに見せたい。
川越道緑地	4	古くからの武蔵野の森のようなたたずまいが感じられる。
緑道、遊歩道	4	散歩や運動で気持ち良く通れる。車を気にせず歩ける所は大事。
立川公園	3	桜並木がきれい。カワセミがくる。
錦第二公園（鬼公園）	3	数々の映画やドラマ、アニメで取り上げられた有名な公園。
高砂公園	2	桜がきれいな広い公園。
古民家園	2	昔の住宅を実際に見ることができる。
砂川の木々・けやき	2	少なくなったが、残っているものだけでも残してほしい。
ファーレ立川	2	立川の芸術に関する魅力が伝わる。
一番町	2	木々が綺麗に植えられている。

各 1 件

立川市から大田区までの崖線（ハケ）、富士見緑地、市内の各用水、柴崎体育館前の川、錦町 5 丁目の指定樹木、五日市街道沿いの保存樹木、柴崎体育館駅の西側の生け垣、大山団地周辺の地域の自然や公園、けやき台団地の大きな木・公園、未来センター前のみどり、各地域の野菜販売、神社、阿豆佐味天神社、普濟寺、熊野神社、金比羅山、立川駅北側周辺の道路、都道 153 号、江の島公園、立川北口公園、錦町第三公園、自由にキャッチボール等できる場所、貝殻橋、砂川のウド室、若葉町の木々や産直、市役所周辺の地域のみどり、砂川町・泉町の立川断層、西武立川→武蔵砂川駅間の線路沿い、高松駅近くの旧米軍住宅給水塔、若葉町 2 丁目米軍ハウス、公共機関（砂川町）、武蔵砂川駅、柴崎体育館、砂川中央グラウンド、砂川中央地区庭球場、立川市営球場、市営立川球場と陸上競技場の周辺、泉体育館、ららぽ、旧清掃工場跡地、旧若葉小跡地、立川一小、立川市練成館、立川駅周辺の雑多なエリア、街全体

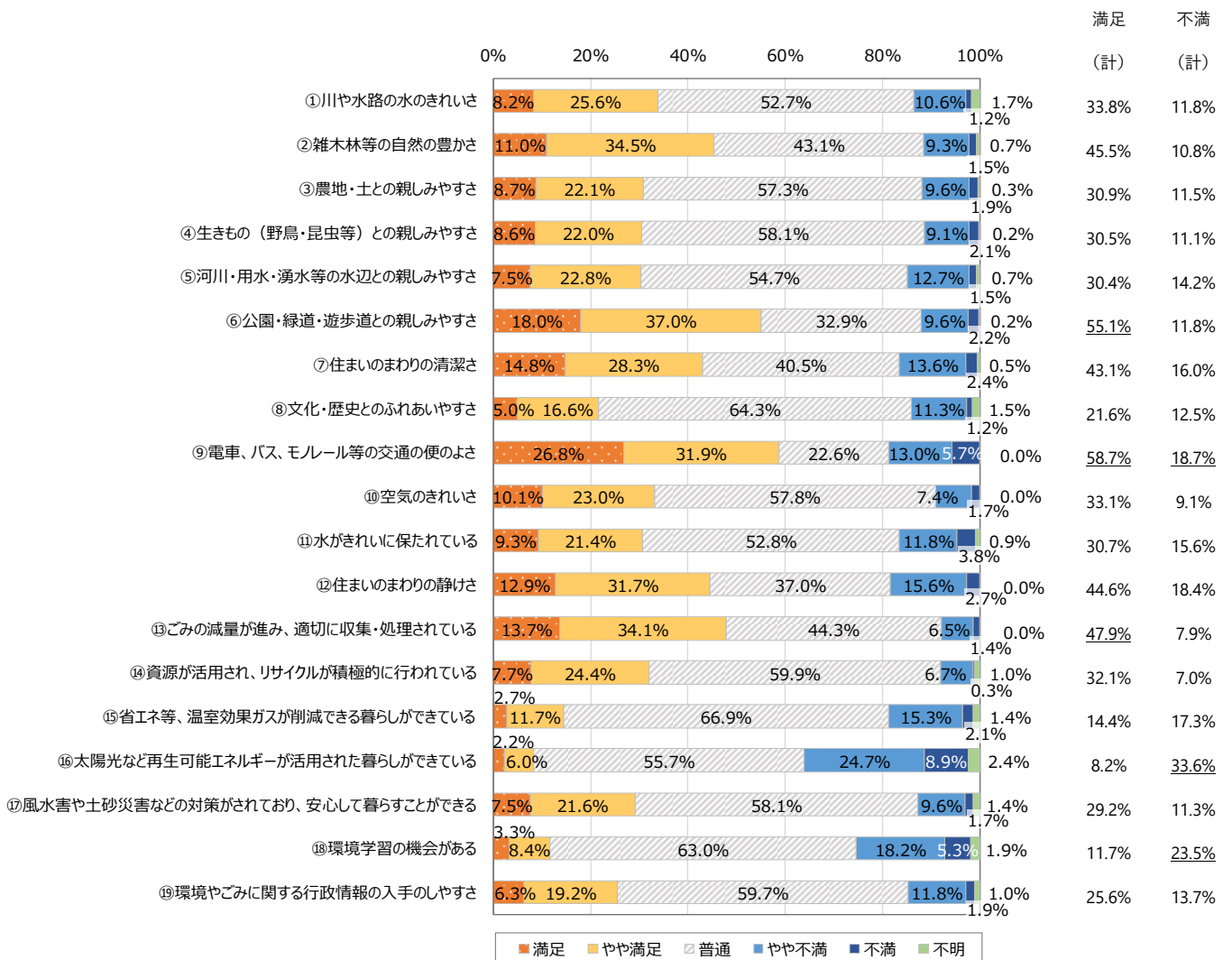
2-3 立川市の環境の満足度と重要度について

(1) 立川市の環境に対する満足度

問 1 1 【A】立川市の環境について、どのように感じていますか。各項目の満足度について、あてはまる番号 1～5 の中から 1 つだけ○で囲んでください。

立川市の環境についてどのように感じていることを聞いたところ、『満足(計)』(「満足」「やや満足」の合計)については、「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ(58.7%)」が最も多く、次いで、「⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ(55.1%)」、「⑬ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている(47.9%)」の回答が多くなっています。一方、『不満(計)』(「やや不満」「不満」の合計)については、「⑯太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができています(33.6%)」が最も多く、次いで「⑱環境学習の機会がある(23.5%)」、「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ(18.7%)」の回答が多くなっています。

「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ」については、『満足(計)』、『不満(計)』の双方で上位にあがっており、居住する地域によって回答差があることが考えられます。



『満足(計)』: 「満足」「やや満足」の合計
『不満(計)』: 「やや不満」「不満」の合計

前回の平成 30 年度の調査結果と比較すると、比較可能な 12 項目のうち 11 項目について、全体的な満足度の変化は大きく変わらないといえます。「⑩環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ」は、『満足 (計)』が 17.7pt 減少し、『不満 (計)』も増加しています。年齢別での傾向をみたところ、70 歳以上の満足度が低い傾向がみられ、世代間で満足度に差があることがうかがえます。

<前回調査との比較>

●各項目の比較

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		満足	満足	やや満足	やや満足	普通	普通
①	川や水路のきれいさ	8.2%	10.4%	25.6%	25.5%	52.7%	47.4%
②	雑木林等の自然の豊かさ	11.0%	13.0%	34.5%	27.6%	43.1%	40.8%
③	農地・土との親しみやすさ	8.7%	7.2%	22.1%	17.6%	57.3%	55.3%
④	生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	8.6%	6.7%	22.0%	19.0%	58.1%	52.4%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	7.5%	6.2%	22.8%	20.5%	54.7%	49.2%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	18.0%	17.3%	37.0%	33.4%	32.9%	30.2%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	14.8%	14.3%	28.3%	29.5%	40.5%	39.4%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	5.0%	4.6%	16.6%	10.7%	64.3%	64.8%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	26.8%	26.5%	31.9%	31.3%	22.6%	19.7%
⑩	空気のきれいさ	10.1%	11.9%	23.0%	24.3%	57.8%	50.6%
⑫	住まいのまわりの静けさ	12.9%	18.9%	31.7%	25.8%	37.0%	34.4%
⑰	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	6.3%	14.3%	19.2%	29.0%	59.7%	45.9%

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		やや不満	やや不満	不満	不満
①	川や水路のきれいさ	10.6%	12.2%	1.2%	2.4%
②	雑木林等の自然の豊かさ	9.3%	13.0%	1.5%	2.4%
③	農地・土との親しみやすさ	9.6%	11.9%	1.9%	3.9%
④	生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	9.1%	15.7%	2.1%	3.5%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	12.7%	16.9%	1.5%	4.9%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	9.6%	13.2%	2.2%	3.5%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	13.6%	11.9%	2.4%	3.1%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	11.3%	14.3%	1.2%	2.9%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	13.0%	12.3%	5.7%	8.0%
⑩	空気のきれいさ	7.4%	9.4%	1.7%	2.5%
⑫	住まいのまわりの静けさ	15.6%	13.9%	2.7%	5.5%
⑰	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	11.8%	7.5%	1.9%	1.9%

●『満足 (計)』、『不満 (計)』の比較

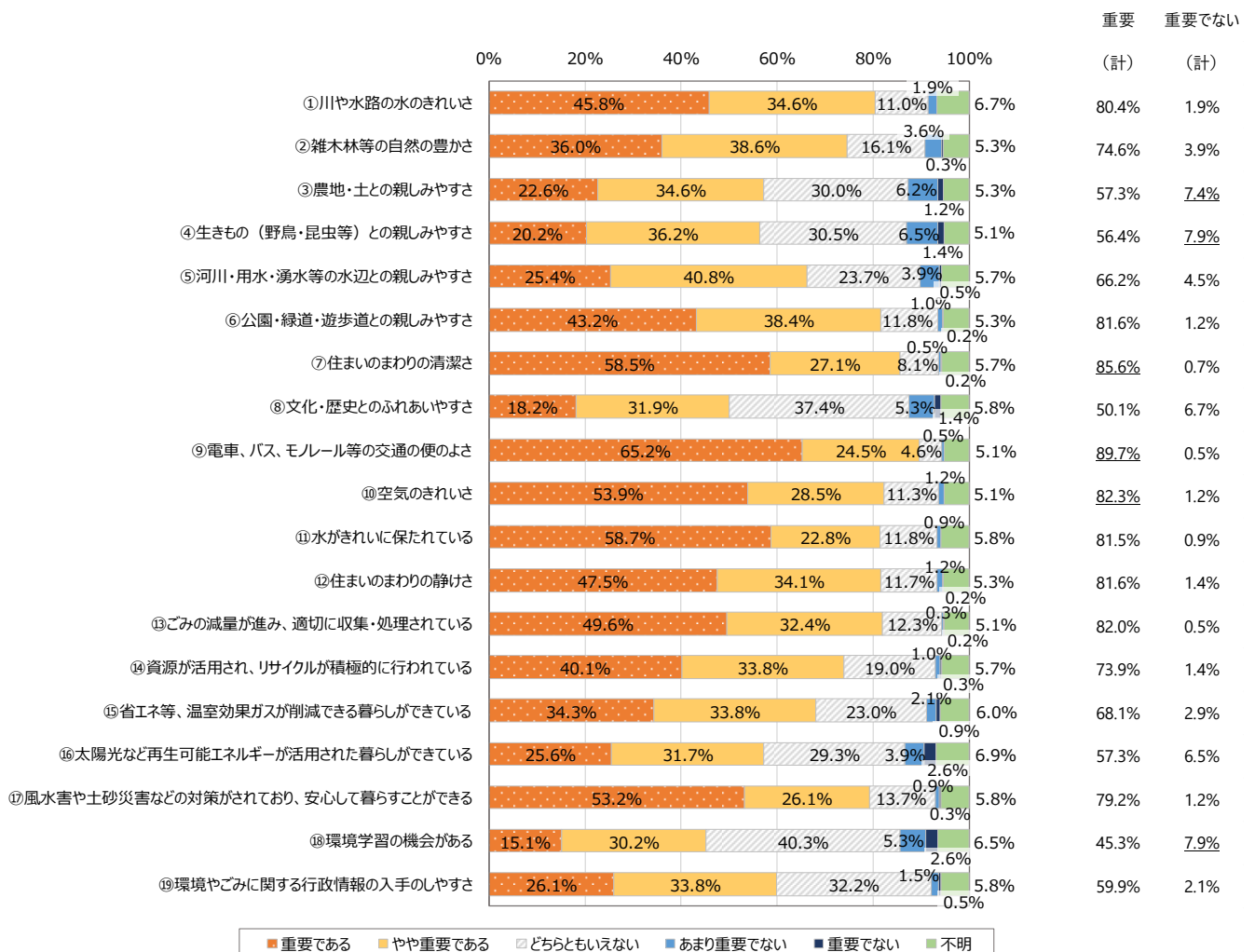
NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		満足+やや満足	満足+やや満足	普通	普通	やや不満+不満	やや不満+不満
①	川や水路のきれいさ	33.8%	35.9%	52.7%	47.4%	11.8%	14.6%
②	雑木林等の自然の豊かさ	45.5%	40.6%	43.1%	40.8%	10.8%	15.4%
③	農地・土との親しみやすさ	30.9%	24.8%	57.3%	55.3%	11.5%	15.8%
④	生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ	30.5%	25.7%	58.1%	52.4%	11.1%	19.1%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	30.4%	26.8%	54.7%	49.2%	14.2%	21.8%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	55.1%	50.8%	32.9%	30.2%	11.8%	16.6%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	43.1%	43.8%	40.5%	39.4%	16.0%	15.0%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	21.6%	15.3%	64.3%	64.8%	12.5%	17.2%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	58.7%	57.8%	22.6%	19.7%	18.7%	20.4%
⑩	空気のきれいさ	33.1%	36.2%	57.8%	50.6%	9.1%	11.9%
⑫	住まいのまわりの静けさ	44.6%	44.7%	37.0%	34.4%	18.4%	19.4%
⑰	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	25.6%	43.3%	59.7%	45.9%	13.7%	9.4%

※端数を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

(2) 立川市の環境に関する重要度

問 1 1 【B】立川市の環境について、どのように感じていますか。各項目の重要度について、あてはまる番号 1～5 の中から 1 つだけ○で囲んでください。

立川市の環境についてどのように感じていることを聞いたところ、『重要(計)』『重要』『やや重要』の合計)については、「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ(89.7%)」が最も多く、次いで、「⑦住まいのまわりの清潔さ(85.6%)」、「⑩空気のきれいさ(82.3%)」の回答が多くなっています。一方、『重要でない(計)』『あまり重要でない』『重要でない』の合計)については、「④生きもの(野鳥・昆虫等)との親しみやすさ(7.9%)」と「⑱環境学習の機会がある(7.9%)」が最も多く、次いで「③農地・土との親しみやすさ(7.4%)」の回答が多くなっています。



『重要(計)』: 「重要」「やや重要」の合計

『重要でない(計)』: 「あまり重要でない」「重要でない」の合計

前回の平成30年度の調査結果と比較すると、比較可能な12項目のうち10項目で『重要(計)』の回答率が減少しています。「⑩環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ」は、『重要(計)』が18.6pt減少し、『重要でない(計)』も増加しています。

<前回調査との比較>

●各項目の比較

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		重要	重要	やや重要	やや重要	どちらともいえない	どちらともいえない
①	川や水路のきれいさ	45.8%	56.4%	34.6%	28.0%	11.0%	6.7%
②	雑木林等の自然の豊かさ	36.0%	43.4%	38.6%	35.0%	16.1%	11.8%
③	農地・土との親しみやすさ	22.6%	27.0%	34.6%	32.2%	30.0%	25.4%
④	生きもの(野鳥・昆虫等)との親しみやすさ	20.2%	25.2%	36.2%	34.1%	30.5%	24.8%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	25.4%	32.3%	40.8%	38.3%	23.7%	17.8%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	43.2%	48.3%	38.4%	34.0%	11.8%	8.6%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	58.5%	63.1%	27.1%	22.7%	8.1%	5.4%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	18.2%	19.6%	31.9%	34.4%	37.4%	30.8%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	65.2%	64.2%	24.5%	23.0%	4.6%	2.8%
⑩	空気のきれいさ	53.9%	64.5%	28.5%	21.2%	11.3%	5.3%
⑫	住まいのまわりの静けさ	47.5%	46.9%	34.1%	34.3%	11.7%	8.5%
⑰	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	26.1%	44.0%	33.8%	34.5%	32.2%	11.1%

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		あまり重要でない	あまり重要でない	重要でない	重要でない
①	川や水路のきれいさ	1.9%	0.4%	0.0%	0.1%
②	雑木林等の自然の豊かさ	3.6%	1.2%	0.3%	0.3%
③	農地・土との親しみやすさ	6.2%	4.4%	1.2%	1.0%
④	生きもの(野鳥・昆虫等)との親しみやすさ	6.5%	5.0%	1.4%	2.1%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	3.9%	2.4%	0.5%	0.7%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	1.0%	0.8%	0.2%	0.0%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	0.5%	0.1%	0.2%	0.0%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	5.3%	4.3%	1.4%	1.5%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	0.5%	0.6%	0.0%	0.3%
⑩	空気のきれいさ	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%
⑫	住まいのまわりの静けさ	1.2%	0.7%	0.2%	0.1%
⑰	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	1.5%	0.7%	0.5%	0.0%

●『重要(計)』、『重要でない(計)』の比較

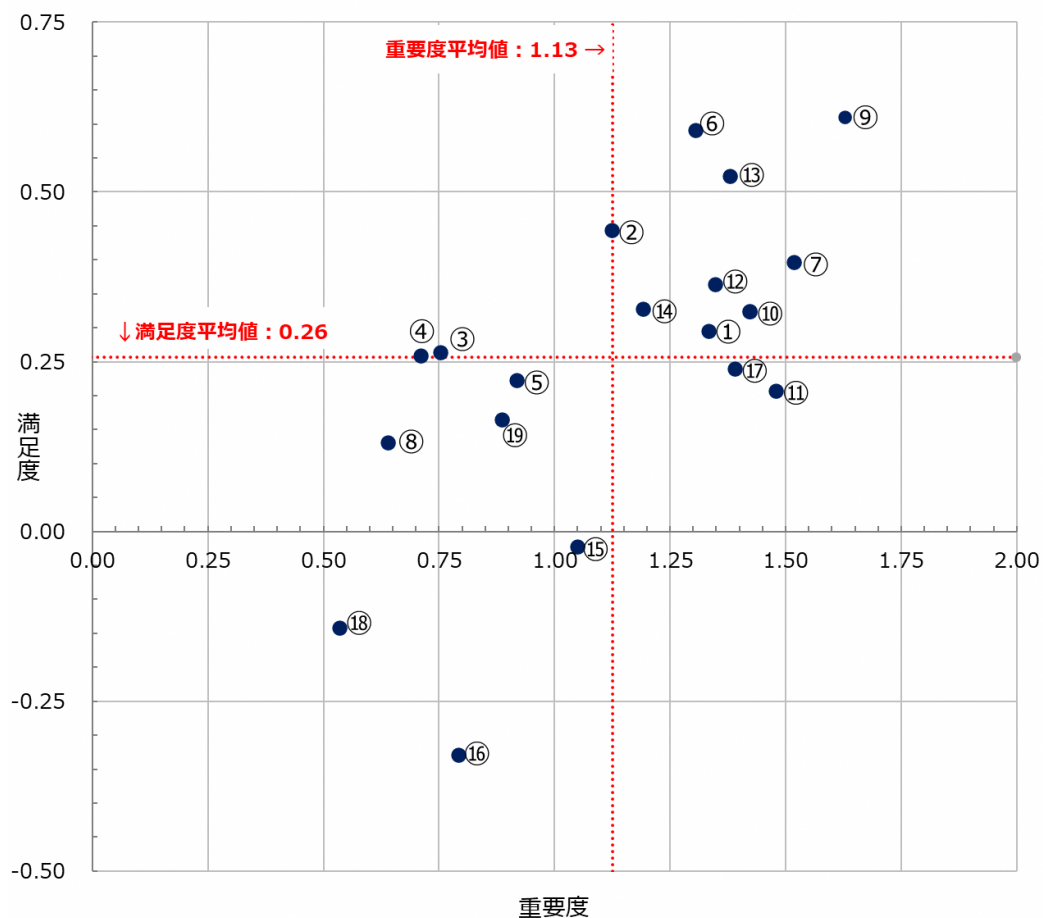
NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		重要+やや重要	重要+やや重要	どちらともいえない	どちらともいえない	あまり重要でない+重要でない	あまり重要でない+重要でない
①	川や水路のきれいさ	80.4%	84.5%	11.0%	6.7%	1.9%	0.6%
②	雑木林等の自然の豊かさ	74.6%	78.4%	16.1%	11.8%	3.9%	1.5%
③	農地・土との親しみやすさ	57.3%	59.2%	30.0%	25.4%	7.4%	5.4%
④	生きもの(野鳥・昆虫等)との親しみやすさ	56.4%	59.4%	30.5%	24.8%	7.9%	7.1%
⑤	河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ	66.2%	70.6%	23.7%	17.8%	4.5%	3.1%
⑥	公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ	81.6%	82.2%	11.8%	8.6%	1.2%	0.8%
⑦	住まいのまわりの清潔さ	85.6%	85.9%	8.1%	5.4%	0.7%	0.1%
⑧	文化・歴史とのふれあいやすさ	50.1%	54.0%	37.4%	30.8%	6.7%	5.8%
⑨	電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ	89.7%	87.2%	4.6%	2.8%	0.5%	0.8%
⑩	空気のきれいさ	82.3%	85.7%	11.3%	5.3%	1.2%	0.0%
⑫	住まいのまわりの静けさ	81.6%	81.1%	11.7%	8.5%	1.4%	0.8%
⑰	環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ	59.9%	78.5%	32.2%	11.1%	2.1%	0.7%

※端数を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

その結果、満足度・重要度ともに平均より高い項目は 8 項目あり、なかでも「⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ」、「⑦住まいのまわりの清潔さ」、「⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ」、「⑬ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている」が高くなっています。

一方、満足度・重要度ともに平均より低い項目は 7 項目で、なかでも「⑯太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができています」、「⑱環境学習の機会がある」が低くなっています。

重要度が高いものの満足度が低い項目は、「⑪水がきれいに保たれている」、「⑰風水害や土砂災害などの対策がされており、安心して暮らすことができる」の 2 項目でした。



- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| ①川や水路の水のきれいさ | ②雑木林等の自然の豊かさ |
| ③農地・土との親しみやすさ | ④生きもの（野鳥・昆虫等）との親しみやすさ |
| ⑤河川・用水・湧水等の水辺との親しみやすさ | ⑥公園・緑道・遊歩道との親しみやすさ |
| ⑦住まいのまわりの清潔さ | ⑧文化・歴史とのふれあいやすさ |
| ⑨電車、バス、モノレール等の交通の便のよさ | ⑩空気のきれいさ |
| ⑪水がきれいに保たれている | ⑫住まいのまわりの静けさ |
| ⑬ごみの減量が進み、適切に収集・処理されている | ⑭資源が活用され、リサイクルが積極的に行われている |
| ⑮省エネ等、温室効果ガスが削減できる暮らしができています | |
| ⑯太陽光など再生可能エネルギーが活用された暮らしができています | |
| ⑰風水害や土砂災害などの対策がされており、安心して暮らすことができる | |
| ⑱環境学習の機会がある | ⑲環境やごみに関する行政情報の入手のしやすさ |

2-4 環境に関する取組状況について

(1) 環境に関する取組状況

問 1 2 環境に関して、普段あなたが取り組んでいることを教えてください。それぞれの取組について、あてはまる番号 1～5の中から1つだけ○で囲んでください。

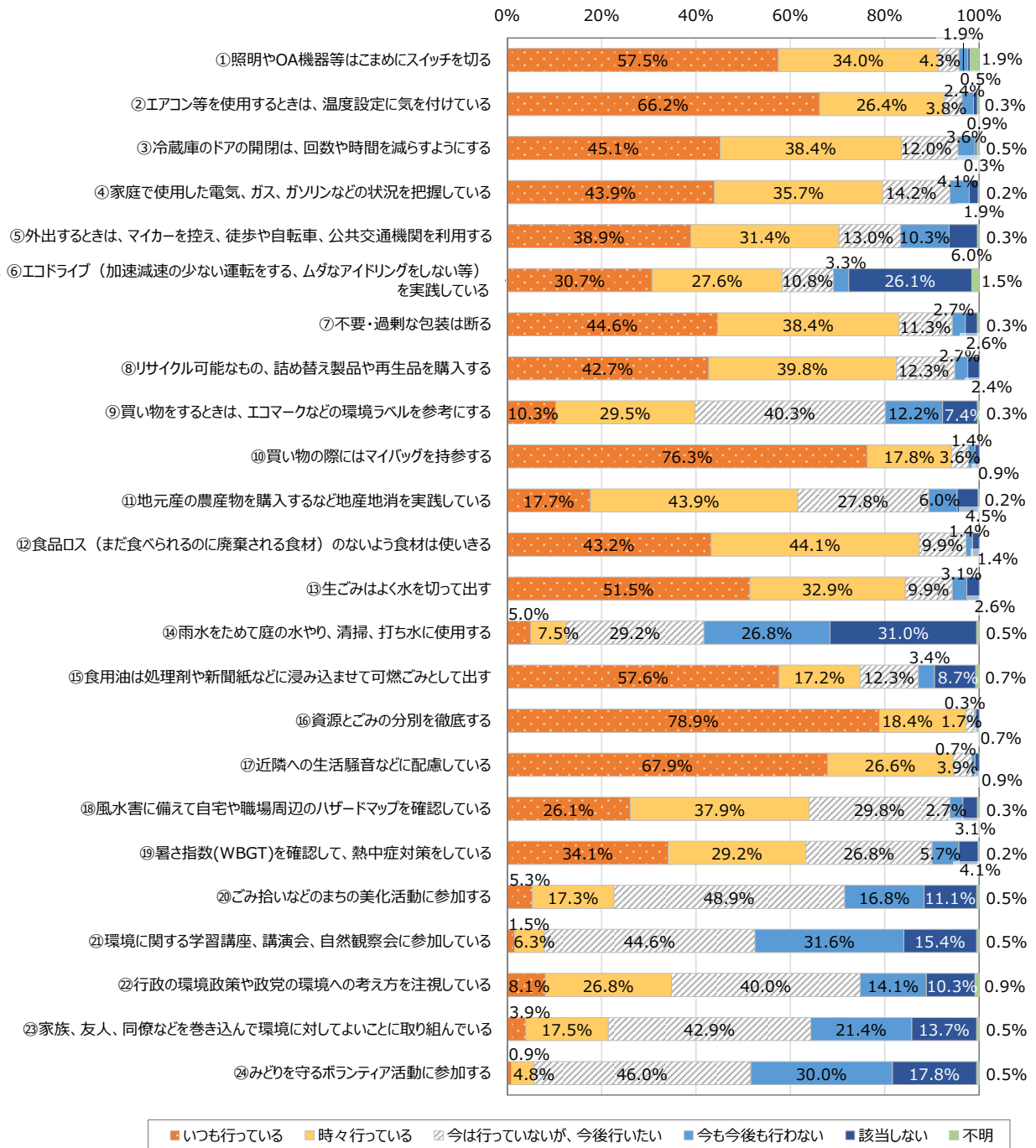
普段取り組んでいる環境の取組について聞いたところ、『いつも行っている』の回答が多かったのは、「⑩資源とごみの分別を徹底する（78.9%）」、「⑩買い物際にはマイバッグを持参する（76.3%）」が7割以上の回答となっています。このほか、「⑦近隣への生活騒音などに配慮している（67.9%）」、「②エアコン等を使用するときは、温度設定に気を付けている（66.2%）」は6割以上の回答となっています。これらの取組については、『時々行っている』と合わせると9割以上が取り組んでいる結果となりました。

『今は行っていないが、今後行いたい』については、「⑩ごみ拾いなどのまちの美化活動に参加する（48.9%）」、「④みどりを守るボランティア活動に参加する（46.0%）」、「④環境に関する学習講座、講演会、自然観察会に参加している（44.6%）」が多くなっています。一方、「②環境に関する学習講座、講演会、自然観察会に参加している（31.6%）」と「④みどりを守るボランティア活動に参加する（30.0%）」は『今も今後も行わない』の回答の上位にもなっています。

性別での傾向をみたところ、「⑦不要・過剰な包装は断る」、「⑧リサイクル可能なもの、詰め替え製品や再生品を購入する」、「⑤食用油は処理剤や新聞紙などに浸み込ませて可燃ごみとして出す」で女性が男性に比べ、『いつも行っている』の回答割合が20pt程度多くなっています。

年齢別での傾向をみたところ、「⑨買い物をするときは、エコマークなどの環境ラベルを参考にする」、「⑪地元産の農産物を購入するなど地産地消を実践している」、「⑬生ごみはよく水を切って出す」、「⑤食用油は処理剤や新聞紙などに浸み込ませて可燃ごみとして出す」、「⑩資源とごみの分別を徹底する」、「⑦近隣への生活騒音などに配慮している」、「⑩風水害に備えて自宅や職場周辺のハザードマップを確認している」、「⑨暑さ指数(WBGT)を確認して、熱中症対策をしている」、「⑩ごみ拾いなどのまちの美化活動に参加する」で10代～20代の『いつも行っている』、『時々行っている』を合わせた回答割合が低く、概ね40代以上の年代で回答割合が高い傾向が出ています。

環境問題に対する姿勢での傾向をみたところ、環境問題に対する姿勢で「積極的である」、「どちらかといえば積極的である」と回答した者は、「どちらかといえば消極的である」、「消極的である」と回答した者と比べ環境活動の取組を「いつも行っている」、「時々行っている」の回答割合が高い傾向が出ています。



前回の平成30年度の調査結果と比較すると、比較可能な11項目のうち8項目で『いつも行っている』の回答率が減少し、特に「⑬生ごみはよく水を切って出す」と「⑮食用油は処理剤や新聞紙などに浸み込ませて可燃ごみとして出す」の減少幅が大きくなっています。

<前回調査との比較>

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		いつも行っている	いつも行っている	時々行っている	時々行っている
①	照明やOA機器等はこまめにスイッチを切る	57.5%	68.1%	34.0%	26.8%
③	冷蔵庫のドアの開閉は、回数や時間を減らすようにする	45.1%	55.5%	38.4%	31.6%
⑤	外出するときは、マイカーを控え、徒歩や自転車、公共交通機関を利用する	38.9%	39.4%	31.4%	34.5%
⑦	不要・過剰な包装は断る	44.6%	44.0%	38.4%	44.5%
⑧	リサイクル可能なもの、詰め替え製品や再生品を購入する	42.7%	50.1%	39.8%	38.1%
⑨	買い物をするときは、エコマークなどの環境ラベルを参考にする	10.3%	11.1%	29.5%	33.4%
⑩	買い物の際にはマイバッグを持参する	76.3%	55.9%	17.8%	32.2%
⑬	生ごみはよく水を切って出す	51.5%	75.0%	32.9%	17.2%
⑭	雨水をためて庭の水やり、清掃、打ち水に使用する	5.0%	3.7%	7.5%	5.5%
⑮	食用油は処理剤や新聞紙などに浸み込ませて可燃ごみとして出す	57.6%	72.3%	17.2%	10.5%
⑯	資源とごみの分別を徹底する	78.9%	85.7%	18.4%	11.8%

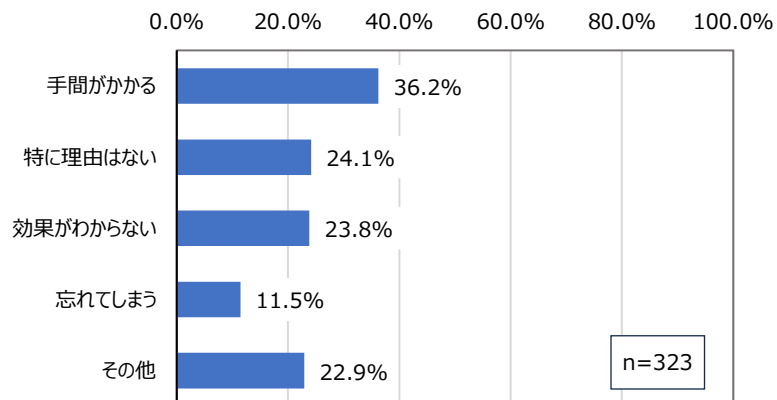
NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		今は行っていないが、今後行いたい	今は行っていないが、今後行いたい	今も今後も行わない	今も今後も行わない
①	照明やOA機器等はこまめにスイッチを切る	4.3%	2.9%	1.9%	1.2%
③	冷蔵庫のドアの開閉は、回数や時間を減らすようにする	12.0%	7.5%	3.6%	3.5%
⑤	外出するときは、マイカーを控え、徒歩や自転車、公共交通機関を利用する	13.0%	8.5%	10.3%	9.2%
⑦	不要・過剰な包装は断る	11.3%	6.2%	2.7%	1.7%
⑧	リサイクル可能なもの、詰め替え製品や再生品を購入する	12.3%	6.4%	2.7%	1.8%
⑨	買い物をするときは、エコマークなどの環境ラベルを参考にする	40.3%	35.5%	12.2%	12.5%
⑩	買い物の際にはマイバッグを持参する	3.6%	5.3%	1.4%	2.8%
⑬	生ごみはよく水を切って出す	9.9%	2.2%	3.1%	1.0%
⑭	雨水をためて庭の水やり、清掃、打ち水に使用する	29.2%	21.9%	26.8%	33.0%
⑮	食用油は処理剤や新聞紙などに浸み込ませて可燃ごみとして出す	12.3%	5.5%	3.4%	1.1%
⑯	資源とごみの分別を徹底する	1.7%	1.0%	0.3%	0.1%

(2) 環境に関する取組を今後も行わない理由

問13 問12で1つ以上「今も今後も行わない」と回答した方にご質問します。取り組むのは難しい理由としてあてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境活動に取り組まない理由を聞いたところ、「手間がかかる（36.2%）」が最も多く、次いで、「特に理由はない（24.1%）」、「効果がわからない（23.8%）」となっています。

その他の回答では、時間に余裕がない、参加の仕方がわからない、体力的に難しい、他に重要事項（優先事項）があるなどが理由として挙げられています。



◆その他回答（抜粋）

- 利便性
- ボランティア活動等の参加の仕方がわからない
- 時間に余裕がないため
- 年齢的に難しい、体力的にむずかしい
- 面倒臭いからです
- 公共交通機関を利用したくても交通の便がよくない
- 情報を得るのが難しい
- 他に重要事項（優先事項）がある
- 人を巻き込むのは好ましくない
- 講演会などに参加する時間が合わないため
- 快適さを重視
- 必要性を感じていない
- 興味が湧かない

など

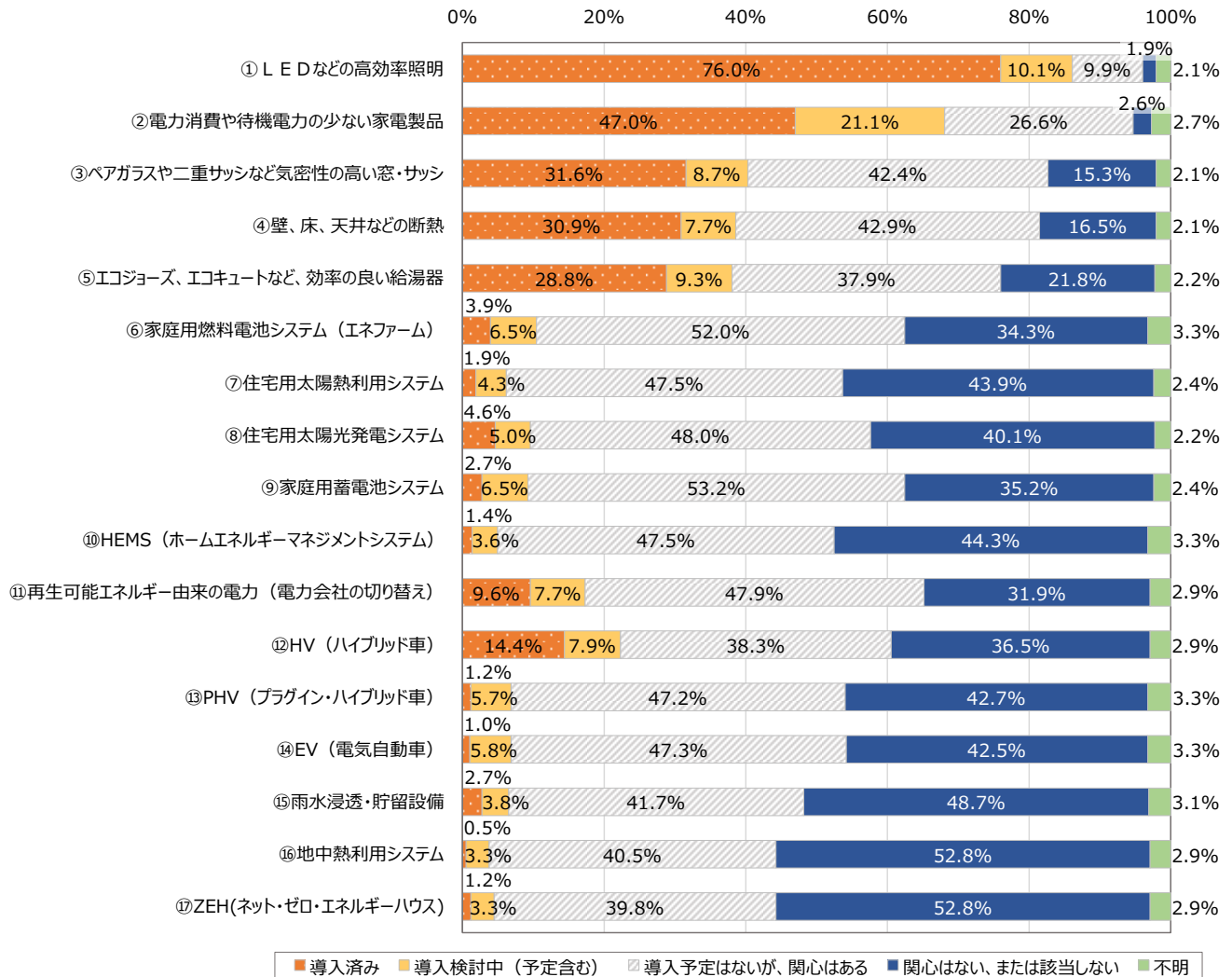
(3) 地球温暖化対策設備機器の導入状況

問14 地球温暖化対策につながる次の項目について、あなたの世帯で導入しているものはありますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1~4の中から1つだけ○で囲んでください。

地球温暖化防止につながる機器や設備などの導入状況を聞いたところ、『導入済み』は「①LEDなどの高効率照明(76.0%)」が最も高く、「②電力消費や待機電力の少ない家電製品(47.0%)」、「③ペアガラスや二重サッシなど気密性の高い窓・サッシ(31.6%)」、「④壁、床、天井などの断熱(30.9%)」、「⑤エコジョーズ、エコキュートなど、効率の良い給湯器(28.8%)」と続いています。

また、『導入予定はないが、関心はある』については、「⑨家庭用蓄電池システム(53.2%)」、「⑥家庭用燃料電池システム(エネファーム)(52.0%)」の回答率が高く5割以上の回答となっています。

居住形態別での傾向をみたところ、一戸建て(持ち家)と集合住宅(持ち家)での導入率が比較的高くなっている一方で、一戸建て(借家)、集合住宅(借家)、社宅・寮では導入率が低くなっています。地球温暖化対策設備機器等によって居住者の判断で導入を決定することができるものと、そうではないものがあることによる影響と考えられます。居住形態に関わらず『導入予定はないが、関心はある』とした回答率が比較的高いことから、地球温暖化対策設備機器等の導入を進めていくうえでは、導入しやすい一戸建て(持ち家)や集合住宅(持ち家)の居住者と、一戸建て(借家)、集合住宅(借家)、社宅・寮の持ち主のそれぞれのニーズにあった働きかけが必要であることがうかがえます。



前回の平成30年度の調査結果と比較すると、比較可能な7項目のうちほとんどの項目で『導入済み』の回答率が増えています。回答率が上昇した「⑪再生可能エネルギー由来の電力（電力会社の切り替え）」は、電力自由化の認知度の上昇やメニューの増加など市場が整備され、より取り組みやすくなったことが回答率の上昇に影響していることがうかがえます。

<前回調査との参考比較>

NO.	項目	令和5年度	平成30年度
		導入済み	導入済み
①	LEDなどの高効率照明	76.0%	71.3%
③	ペアガラスや二重サッシなど気密性の高い窓・サッシ	31.6%	29.4%
⑤	エコジョーズ、エコキュートなど、効率の良い給湯器	28.8%	21.5%
⑦	住宅用太陽熱利用システム	1.9%	0.7%
⑧	住宅用太陽光発電システム	4.6%	5.8%
⑩	HEMS (ホームエネルギーマネジメントシステム)	1.4%	1.2%
⑪	再生可能エネルギー由来の電力 (電力会社の切り替え)	9.6%	3.9%

※項目及び選択肢の表現が前回調査時と異なるため、参考比較としています。

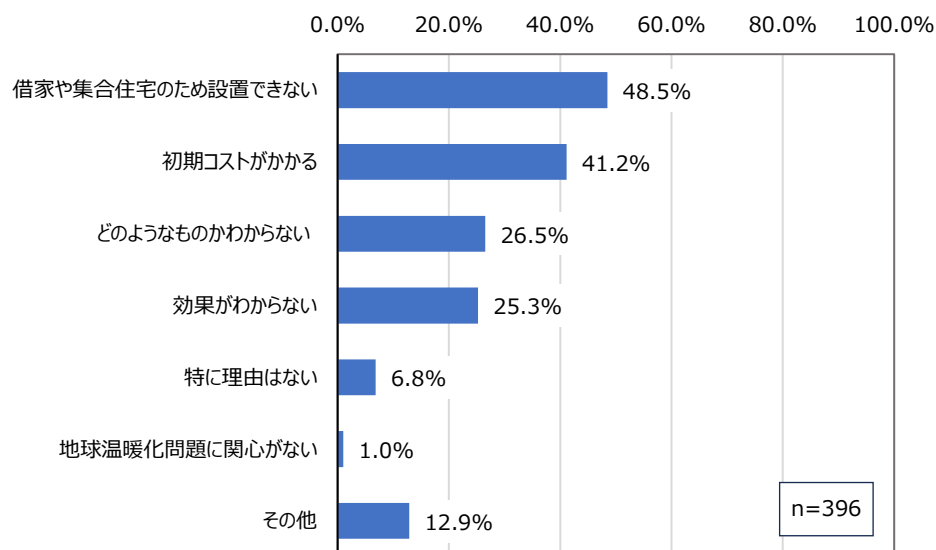
(4) 地球温暖化対策設備機器を導入しない理由

問15 問14で1つ以上「関心はない、または該当しない」と回答した方にご質問します。理由としてあてはまる番号すべてを○で囲んでください。

地球温暖化対策設備機器を導入しない理由を聞いたところ、「借家や集合住宅のため設置できない(48.5%)」が最も多く、次いで「初期コストがかかる(41.2%)」、「どのようなものかわからない(26.5%)」、「効果がわからない(25.3%)」となっています。

また、その他の回答から、費用対効果に疑問がある、維持費がかかる、使用済みバッテリーの処理方法への不安なども理由として挙げられていました。

「地球温暖化問題に関心がない(1.0%)」の回答率が低いことから、地球温暖化対策に取り組む必要性は認知されている一方、導入の妨げとなっている維持費を含めた費用面をはじめとした課題解決が導入率向上のために必要と考えられます。また、設備そのものの不安に対応する適切な情報提供が求められています。



◆その他回答（抜粋）

- 内容が難しそう
 - 日当たりが悪いので付けられない
 - 採算が取れない。費用対効果が疑わしい。
 - 故障、経年劣化等により環境悪化が考えられる
 - 家が古いため
 - メンテナンス費が気掛かり
 - 太陽光パネルにしても売電が安すぎるし、期間があるのが不満
 - 低周波音、電化の電磁波が苦手
 - バッテリーなど使用済になったものの処理設備が整っていない
 - 大規模災害が発生してしまうと、あちらこちらに充電切れの車輛が放置され更なる混乱を招く
 - 環境問題と同等に家庭に利益を生まないと、導入する気にはなれない
 - 再生可能エネルギーの発電効率や安定性を信用していないため
- など

(5) 市の環境情報の入手方法

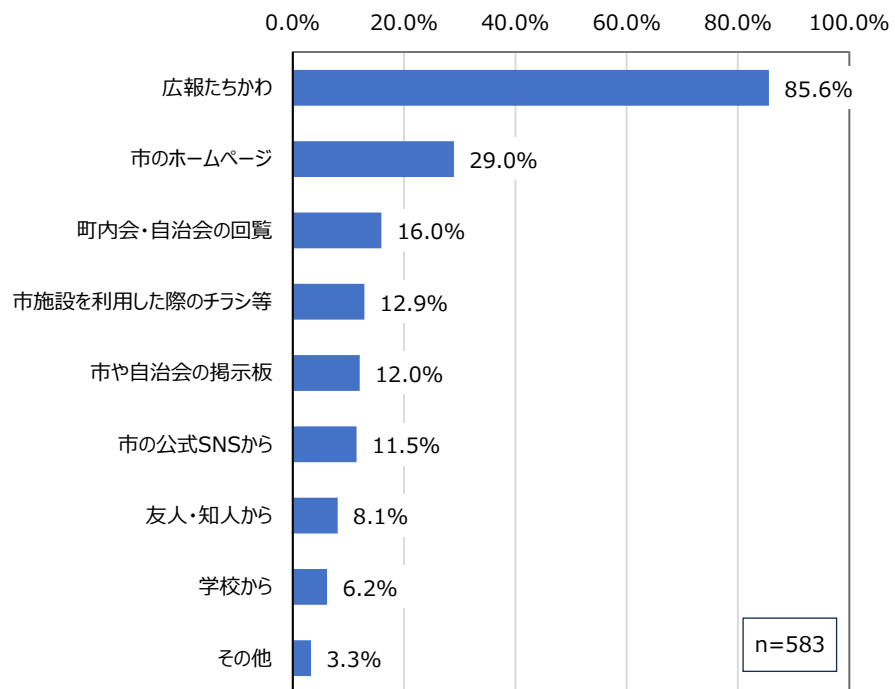
問 1 6 市の環境に関する情報をどのような方法で入手していますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

問 1 7 上記以外で入手しやすい方法がありますか。ご自由にご記入ください。

市の環境情報の入手方法を聞いたところ、「広報たちかわ (85.6%)」が最も多い結果となりました。次いで、「市のホームページ (29.0%)」、「町内会・自治会の回覧 (16.0%)」、となっています。

その他の入手方法として、新聞や「いいね立川」等のメディアなどが挙げられています。

このほか、入手しやすい方法を聞いたところ、WEB の活用、駅や商業施設、学校での掲示やアナウンス、メールマガジンや LINE などの SNS などが挙げられました。



◆その他の入手方法（抜粋）

- 市から配布されたゴミカレンダー
- 多摩エコニュース
- 新聞
- 病院
- 家族から
- 家のまわりや近所
- シルバー人材センター
- 「いいね立川」という web サイト、自分で散歩中に色々発見
- ネット必要なら検索
- 情報を入手していない
- 興味がないのでみない

など

◆その他入手しやすい方法（抜粋）

- SNS が便利で利用しやすい。ごみ分別アプリなど
- 立川市のごみアプリのように、立川市の情報アプリがあると良いかなと思います。
- 市のアプリ等があって、情報を見たり、コメントが自由にできて意見交換したり、知りたいことがすぐ知れたりするものがあれば嬉しい！けど、お年寄りの方は使えない…？ポイントなどももらえる仕組みにすれば関心も広がる。
- 紙媒体は資源のムダ使いと思い、主にパソコン、携帯を利用している。「広報たちかわ」は読みやすくとても良い。
- 自分からホームページを見ることはないので、やはり広報が一番良いと思う。自然に目に止まる。
- 「いいね立川」（Web メディア）
- パソコンを利用するので、必要に応じてホームページを見ます。でも必ずしも入手したい情報がすぐに見つからないことも多く感じます。
- 必要な情報のみをプッシュ型でお知らせしてほしい。
- 逆にコンタクトポイントが多すぎて混乱する。
- 子どもからの話とかなら絶対に耳に入ると思います。
- ODM など
- 見守りメールのようにメールで送信
- 積極的に情報を取りに行く方であれば問 16 のどのような手段でも構いませんが、積極的に情報を取りに行かない立場ですと回覧が望ましいと思う。
- 学校や職場、スーパーや駅で配布してほしい。
- カフェ等にシンプルなチラシの配布を希望。さっと読んで情報収集できます。
- 駅、スーパー、人の出が多いところ
- 駅前に掲示板等で表示があると。
- 新聞
- 市議会議員より、市政報告会等に参加した際に情報を知ることができる。
- 自治会に積極的に参加すること。
- LINE は便利だと思いました。
- 有志団体の SNS
- まずはどんな人をターゲットに何を発信したいかを考えてはいかがでしょうか。必然、方法は決まるのではないのでしょうか。
- 入手しやすいことはありません

など

2-5 自由意見

最後に、環境に関わる意見等を自由記述形式で求めたところ、169人（29.0%）の方からの記入がありました。以下は、記入内容を分類し表にまとめたものです。一人で複数の意見を記入している場合は、それぞれ1件として数えているため、延べ件数は223件となりました。

分類	件数
都市	(計) 82
公害防止（化学物質・騒音・振動） （うちPFASについて）	26 (20)
美化、マナー	23
まちづくり・交通	20
水辺整備	6
空き家空地・不法投棄	6
野焼き	1
自然	(計) 37
自然環境、農地	25
みどり・公園	11
外来生物対策	1
資源	(計) 10
ごみの分別・収集、処理	8
資源の有効利用	2
地球温暖化	(計) 30
再生可能エネルギー	18
気候変動への適応	7
省エネルギー	5
基盤的取組	(計) 19
啓発・情報発信	12
環境教育・環境学習	3
住民参加、協働	2
他都市との連携	2
環境全般	(計) 4
その他	(計) 41
防犯・安全	6
アンケート	5
公共行政	4
その他	26

◆主な意見（要約）

●都市について

- PFAS 問題は緊急の課題だと思う。原因等の調査は勿論だが、具体的な対策を各家庭に促し、市がその費用を負担してほしい。また、市民で希望する方には、検査をし、公表する。実態把握を早急に。
- ヘリコプターの音がうるさい時がある。
- 今でも旧緑川の舗装道路はバイク・車の騒音がうるさい場合が多い。
- 芋窪街道の下水が臭い。雨が降ると排水が詰まっているのか、道路が川のように冠水している。安全に通行できるよう整備してほしい。
- 道路や街路樹にごみのポイ捨てや、動物のフンの未処理が目立つ。環境整備の1つとして、取り締まってほしい。
- 残堀川、根川、多摩川の周辺が汚くごみが散乱している。特にプラスチックゴミが多い。企業に売った責任を問うべきであると思う。
- 土手沿いの芝生に大きな事務機やいろいろな物が不法投棄されている。人や車が止まるとカメラが作動するなどの対策をしないと、いたちごっこになっている。
- 景観のため電線の地中化を要望。市内に電柱が多く、狭い道路がますます狭くなっている。これでは災害に強いとはいえない。
- 緑は非常に大事だが、伸びすぎた枝葉、歩道側の雑草剪定をしてほしい。危険を招く。
- 畑から来る砂、野焼きの煙、肥料の臭い、農家を大事にすることは大切だと思っはいるが窓が開けられないほどにひどい。
- バスの本数が少なすぎる。バスがEVになると良い。

●自然について

- なるべくたくさん自然を残してほしい。一度なくしたら元に戻すのは大変だと思うので。次世代や子供達も安心・安全でのびのびと生活できる立川であってほしい。
- 立川市は都心に出ずとも多くの商品が揃い、娯楽にも恵まれた、活気ある都市である。そうでありながら、豊かな自然環境も各地に分布し、バランスがよくとれていると思う。この2者のバランスを今後も保つことが大事だと思う。
- 農地、林などがなくなり、住宅に変わった。啄木鳥などがきていたが、見ることはなくなった。また、温度が上がったような気がする。緑の保全に力を入れてほしい。
- 公園がある地域、少ない地域の差が市内で大きいように感じる。公園や広場などが少ない地域にはもう少し自然とふれあえる場を整備して行ってほしい。
- 玉川上水沿いの地域で、アライグマの目撃情報がある。この様な外来種は本来の生態系を壊すおそれがあるので、他の自治体の対応を参考にして、駆除して欲しい。

●資源について

- 市指定のごみ袋がもっと安くなってほしい。指定以外の袋で出している人がいてもまとめて回収しているようで腑に落ちない。だったらもっと安くして、分別を細かくしてリサイクルが増えるように変えてほしい。
- ごみの分別が細かすぎる。子供にこれを覚えさせるのは大変。これは何ごみが悩んでしまうものも多く、結局何でも燃やせるごみみたいになってしまう。
- 10月～4月頃まで外のコンポストで生ごみから堆肥を作っている。暑い季節に小虫が出ない方法があれば良いと思う。

●地球温暖化について

- 市の補助金制度について、わかりやすく広報してほしい。
- おそらく断熱材が入っていないであろうアパートに住んでいる。個人としては、あまり電力を使わない等しているが限度がある。まずは、アパートや戸建てにちゃんと断熱材が使用されているか調査してほしいと思う。当てはまらない所には助成するなどして推進することで、今よりも市内全体の消費電力が抑えられるのではないかなと思う。
- 慢性的に混雑する道路や信号機の制御を改善することで渋滞を緩和し、アイドリングや加減速時のエネルギー消費を改善できると考える。
- 市で運営する再生可能エネルギーがあるとよい。「立川市ならでは」の方法があるのでは。
- 太陽光パネルは信頼できる業者を市から紹介してほしい（怪しい業者も多く、踏み切れない）。
- 太陽光パネルを積極的に市の公共施設に設置すべきである。
- 室外機の熱が夏の暑さをひどくしているように思える。あの熱を何かに生かせると良い。
- 太陽光発電、ソーラーパネル、反対します。
- 集中豪雨が発生した時でも、内水氾濫が起きないように下水道水路などの整備が必要。
- 暑いので日陰（木などの自然に優しい）を多くしたり、ミストを導入してほしい。
- 災害に強く、緑豊かで安心安全な暮らしの整った立川市になることを望む。

●基盤的取組について

- 広報紙に別刷で定期的に環境特集等の情報があると良いと考える。
- 学校から配布するプリントに、何をどうすれば環境に優しいのか、配布してくれるとありがたい。例えば、ペットボトルを分別するとどれだけ環境に良いかなど、普段やっていることがどれだけ環境に優しいか、子どもにもわかりやすくしていただけると良い。
- 環境に対する個人の意識を変えさせるには講座や講演会より、日々の生活で実感できるようなシステムを導入し、利用できるようにしてもらいたい。そうでないといつまでも他人事で、自分事として意識しないと考える。
- 地域ごとの小さな勉強会などが自由参加で、2～3ヶ月ごとにあれば、横のつながりも生まれ、良いかなと思う。
- 若者気候変動会議・未来世代委員会などのコミュニティに参加して活動している。感じるのは若者の環境問題への関心の低さと、活動を行っている人とそうでない人のコミュニケーション不足。市には若者が発言できる場を増やすことや再エネ・省エネの積極的な推進（他の市町村の見本となるような）をしていただきたいと思う。
- 環境意識の低い企業の商品を生産する企業は、立川市の独自基準や第三者委員などで監視。例えばEVの環境基準チャートを、国に先駆けて導入する等。
- 立川市だけで取り組んでもやれることに限界があるので、周辺の市も巻き込んで進めるとよいと思う。そのリーダーとして立川市があるとよいと思う。

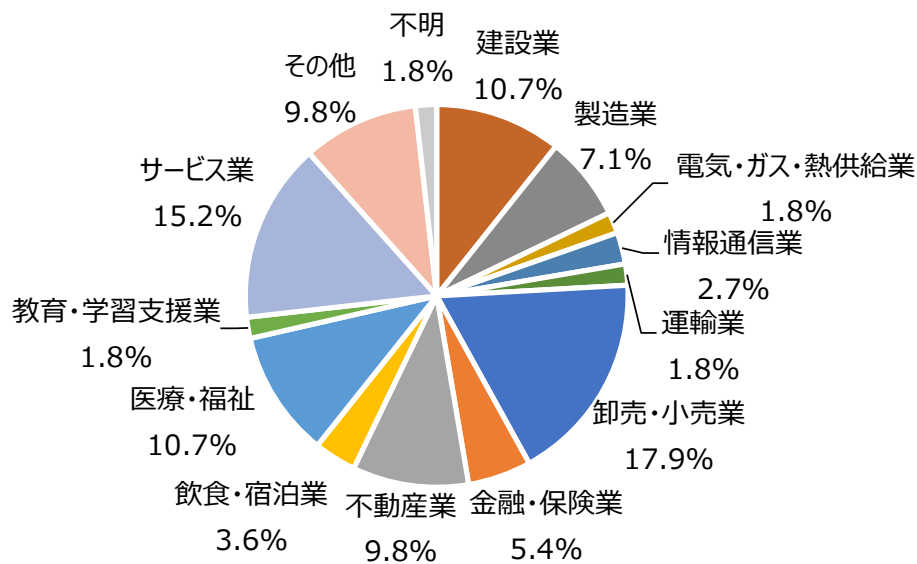
●環境全般について

- 財政的に大変だと思うが、「環境」は私たち住民の「生活の基本」。
- 長期、中期、短期にわたっての取り組むヴィジョンをしっかりと持って、立川市にやっていただきたいと思う。
- 地球を自分の家だと思ってほしい。
- 環境にいいは本当にいいのか、利権なのではと思ってしまう。 など

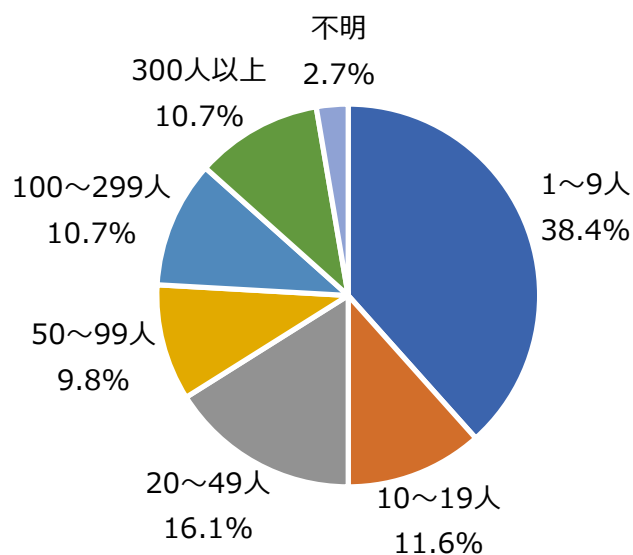
3 事業者アンケート調査の結果

3-1 事業所の属性について

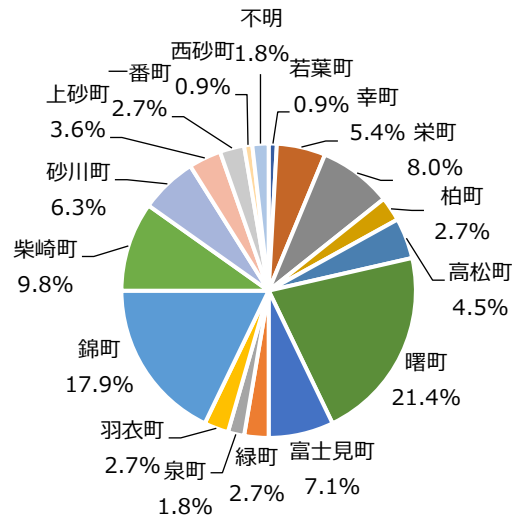
(1) 業種



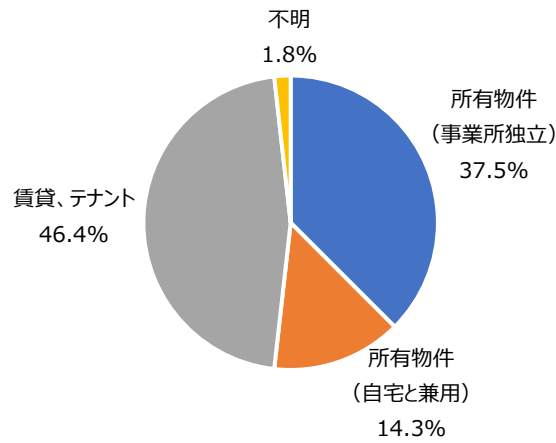
(2) 従業員規模



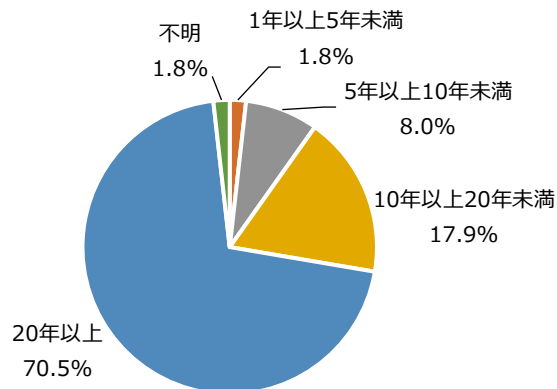
(3) 所在地



(4) 建物の形態



(5) 立川市での事業年数



3-2 立川市の環境に対する考えや認識について

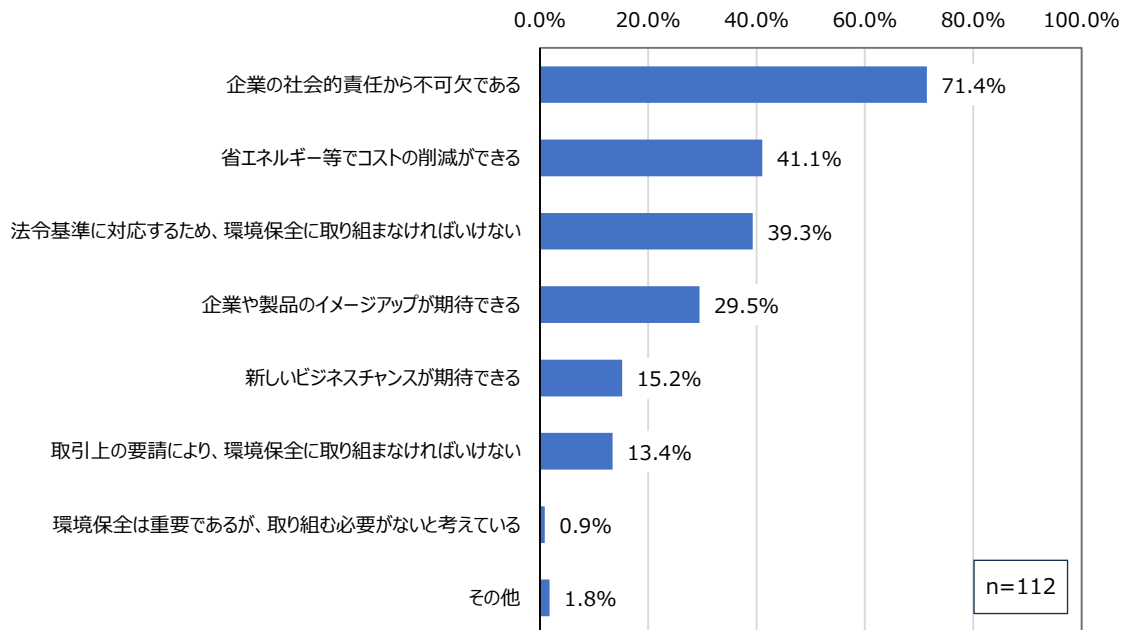
(1) 環境保全への取組に対する考え方

問6 事業活動における環境保全への取組について、貴事業所の考えにあてはまるものはどれですか。あてはまるものすべて○で囲んでください。

環境保全への取組に対する考え方を聞いたところ、「企業の社会的責任から不可欠である(71.4%)」が最も多く、次いで、「省エネルギー等でコストの削減ができる(41.1%)」、「法令基準に対応するため、環境保全に取り組まなければいけない(39.3%)」と続いています。

「環境保全は重要であるが、取り組む必要がないと考えている(0.9%)」の回答は少なく、ほとんどの事業所が環境保全への取組への必要性を感じています。

前回の平成30年度の調査結果と比較すると、「省エネルギー等でコストの削減ができる」「新しいビジネスチャンスが期待できる」の回答率が増えており、社会的責任だけでなく企業経営の改善につながる取組として認識され始めていることがうかがえます。



<前回調査との比較>

NO.	カテゴリー名	令和5年度	平成30年度
1	企業の社会的責任から不可欠である	71.4%	78.2%
2	新しいビジネスチャンスが期待できる	15.2%	14.1%
3	企業や製品のイメージアップが期待できる	29.5%	29.5%
4	省エネルギー等でコストの削減ができる	41.1%	38.5%
5	取引上の要請により、環境保全に取り組まなければいけない	13.4%	15.4%
6	法令基準に対応するため、環境保全に取り組まなければいけない	39.3%	39.7%
7	環境保全は重要であるが、取り組む必要がないと考えている	0.9%	2.6%
8	その他	1.8%	3.8%
	不明	6.3%	0.0%

3-3 事業所の環境活動について

(1) 事業所で取り組んでいる環境活動

問7-1 貴事業所では、どのような環境活動に取り組んでいますか。それぞれの項目について、当てはまる番号1~4の中から1つだけ○で囲んでください。

問7-2 このほか、貴事業所が取り組まれている環境活動がありましたら、ご記入ください。

事業所の環境活動について聞いたところ、実施率が高かったのは、「⑥廃棄物の適正処理（81.3%）」で8割以上の回答となっています。次いで、「⑰節電等の省エネルギーの取り組み（75.9%）」、「⑭エコマーク商品や古紙を再利用したコピー用紙など環境にやさしい商品の利用（73.2%）」で7割以上の事業者で取り組まれています。

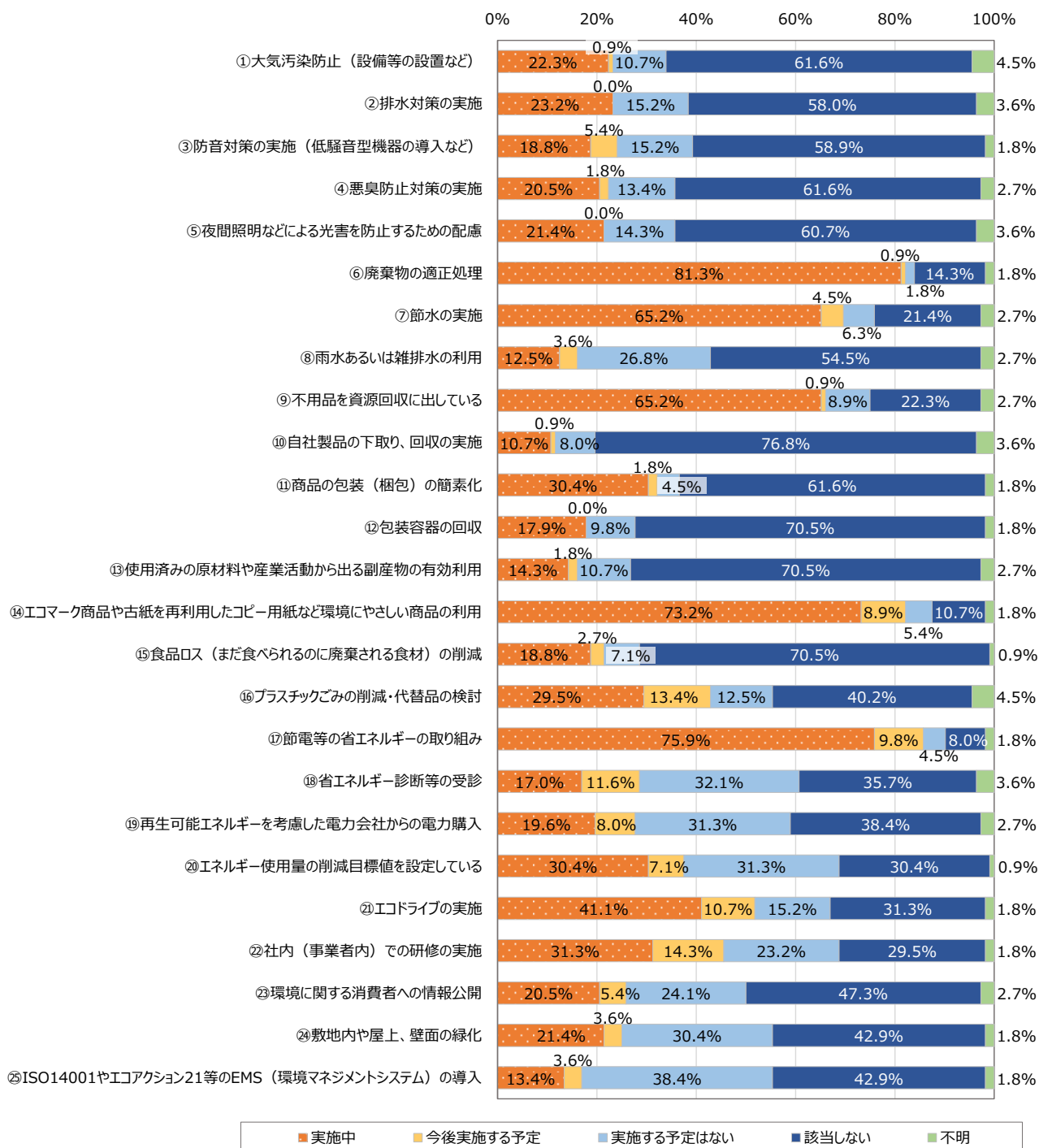
『今後実施する予定』の回答率が高かったのは、「⑳社内（事業者内）での研修の実施（14.3%）」、「㉑プラスチックごみの削減・代替品の検討（13.4%）」、「㉒省エネルギー診断等の受診（11.6%）」、「㉓エコドライブの実施（10.7%）」で1割以上の回答となっています。

一方、『実施する予定はない』の回答率が高かったのは、「㉔ISO14001やエコアクション21等のEMS（環境マネジメントシステム）の導入（38.4%）」、「㉕省エネルギー診断等の受診（32.1%）」、「㉖再生可能エネルギーを考慮した電力会社からの電力購入（31.3%）」、「㉗エネルギー使用量の削減目標値を設定している（31.3%）」となっています。

◆その他の環境活動（抜粋）

- ペットボトルのキャップを回収し、環境団体に寄付（ワクチン購入代）
- 太陽熱を活用した暖房や気化熱を活用した冷房といったエコハウス仕様（エクセルギーハウス）になっている
- FSC認証制度への登録

など



前回の平成30年度の調査結果と比較すると、比較可能な15項目のうち7項目で『実施中』の回答率が増えています。「㉒社内（事業者内）での研修の実施」については、『実施中』が14.6pt、「㉑再生可能エネルギーを考慮した電力会社からの電力購入」で13.2ptと特に増えています。

<前回調査との比較>

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		実施中	実施中	今後実施する 予定	今後実施する 予定
⑤	夜間照明などによる光害を防止するための配慮	21.4%	23.1%	0.0%	2.6%
⑥	廃棄物の適正処理	81.3%	76.9%	0.9%	0.0%
⑦	節水の実施	65.2%	75.6%	4.5%	3.8%
⑧	雨水あるいは雑排水の利用	12.5%	3.8%	3.6%	3.8%
⑨	不用品を資源回収に出している	65.2%	75.6%	0.9%	3.8%
⑩	自社製品の下取り、回収の実施	10.7%	14.1%	0.9%	0.0%
⑪	商品の包装（梱包）の簡素化	30.4%	38.5%	1.8%	1.3%
⑫	包装容器の回収	17.9%	16.7%	0.0%	1.3%
⑬	使用済みの原材料や産業活動から出る副産物の有効利用	14.3%	24.4%	1.8%	7.7%
⑭	エコマーク商品や古紙を再利用したコピー用紙など 環境にやさしい商品の利用	73.2%	66.7%	8.9%	11.5%
⑰	節電等の省エネルギーの取り組み	75.9%	79.5%	9.8%	7.7%
⑱	再生可能エネルギーを考慮した電力会社からの電力購入	19.6%	6.4%	8.0%	10.3%
㉑	エコドライブの実施	41.1%	44.9%	10.7%	7.7%
㉒	社内（事業者内）での研修の実施	31.3%	16.7%	14.3%	12.8%
㉓	環境に関する消費者への情報公開	20.5%	15.4%	5.4%	5.1%

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		実施する 予定はない	実施する 予定はない	該当しない	該当しない
⑤	夜間照明などによる光害を防止するための配慮	14.3%	6.4%	60.7%	59.0%
⑥	廃棄物の適正処理	1.8%	0.0%	14.3%	19.2%
⑦	節水の実施	6.3%	10.3%	21.4%	5.1%
⑧	雨水あるいは雑排水の利用	26.8%	34.6%	54.5%	48.7%
⑨	不用品を資源回収に出している	8.9%	10.3%	22.3%	5.1%
⑩	自社製品の下取り、回収の実施	8.0%	12.8%	76.8%	61.5%
⑪	商品の包装（梱包）の簡素化	4.5%	3.8%	61.6%	43.6%
⑫	包装容器の回収	9.8%	10.3%	70.5%	62.8%
⑬	使用済みの原材料や産業活動から出る副産物の有効利用	10.7%	16.7%	70.5%	43.6%
⑭	エコマーク商品や古紙を再利用したコピー用紙など 環境にやさしい商品の利用	5.4%	6.4%	10.7%	5.1%
⑰	節電等の省エネルギーの取り組み	4.5%	3.8%	8.0%	5.1%
⑱	再生可能エネルギーを考慮した電力会社からの電力購入	31.3%	43.6%	38.4%	26.9%
㉑	エコドライブの実施	15.2%	10.3%	31.3%	29.5%
㉒	社内（事業者内）での研修の実施	23.2%	32.1%	29.5%	28.2%
㉓	環境に関する消費者への情報公開	24.1%	24.4%	47.3%	41.0%

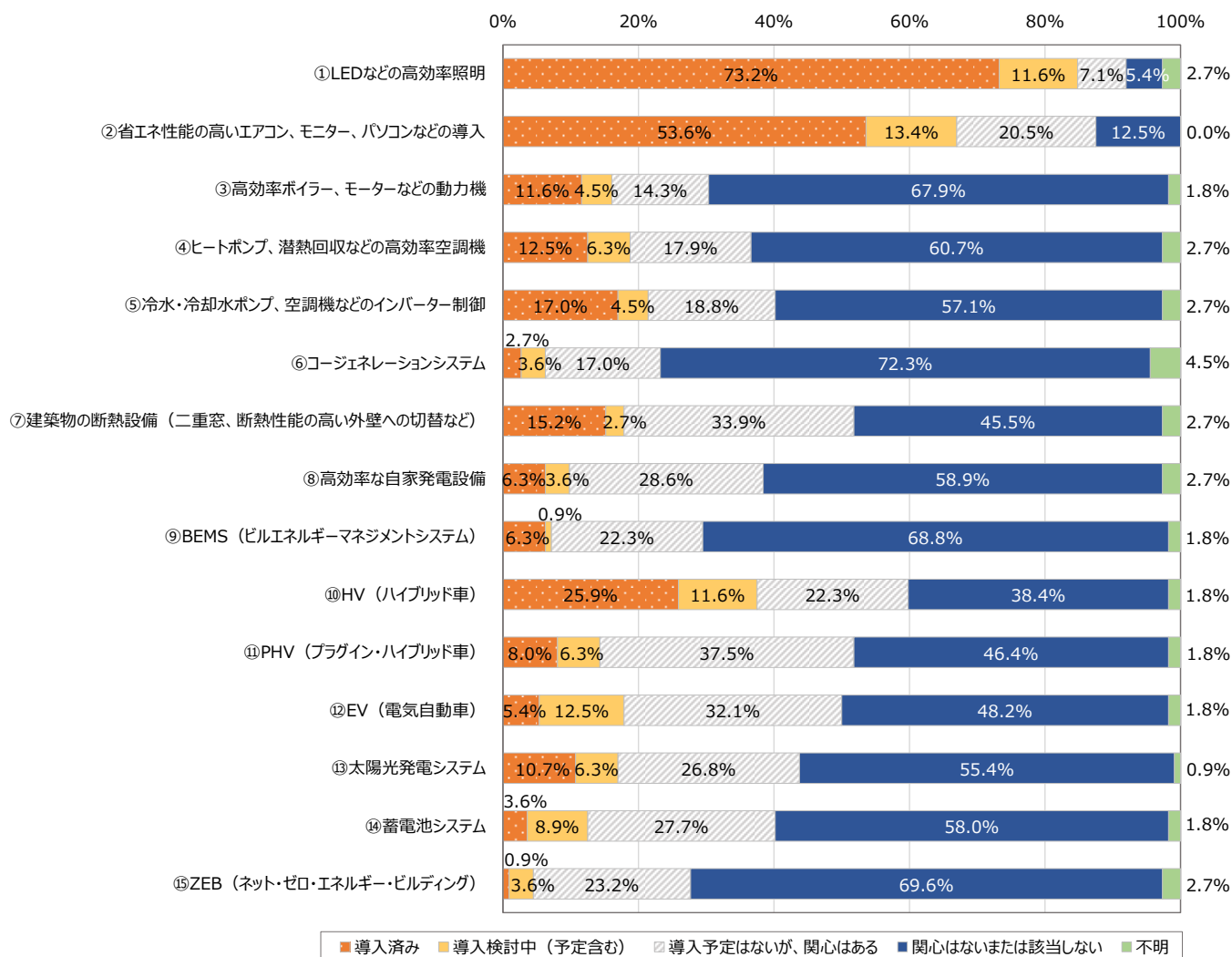
(2) 地球温暖化対策設備機器の導入状況

問8 貴事業所では、地球温暖化防止につながる機器や設備を導入していますか。それぞれの項目について、当てはまる番号1～4の中から1つだけ○で囲んでください。

地球温暖化対策設備機器の導入状況について聞いたところ、『導入済み』と回答した割合は、「①LEDなどの高効率照明（73.2%）」が最も高く、次いで「②省エネ性能の高いエアコン、モニター、パソコンなどの導入（53.6%）」となっています。

また、『導入検討中（予定含む）』については、上記2項目のほか、「⑫EV（電気自動車）（12.5%）」、「⑩HV（ハイブリッド車）（11.6%）」、が多い結果となりました。

『導入予定はないが、関心はある』については、「⑪PHV（プラグイン・ハイブリッド車）（37.5%）」、「⑦建築物の断熱設備（二重窓、断熱性能の高い外壁への切替など）（33.9%）」、「⑫EV（電気自動車）（32.1%）」で回答率が高くなっています。



前回の平成 30 年度の調査結果と比較すると、比較可能な 5 項目すべてで『導入済み』の回答率が増えています。「①LED などの高効率照明」は『導入済み』が 14.2pt と特に増えています。

<前回調査との参考比較>

NO.	項目	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
		導入済み	実施中	導入検討中 (予定含む)	今後実施する 予定
①	LEDなどの高効率照明	73.2%	59.0%	11.6%	20.5%
⑥	コージェネレーションシステム	2.7%	2.6%	3.6%	0.0%
⑦	建築物の断熱設備 (二重窓、断熱性能の高い外壁への切替など)	15.2%	14.1%	2.7%	9.0%
⑩	HV (ハイブリッド車)	25.9%	24.4%	11.6%	15.4%
⑬	太陽光発電システム	10.7%	5.1%	6.3%	3.8%

※項目及び選択肢の表現が前回調査時と異なるため、参考比較としています。

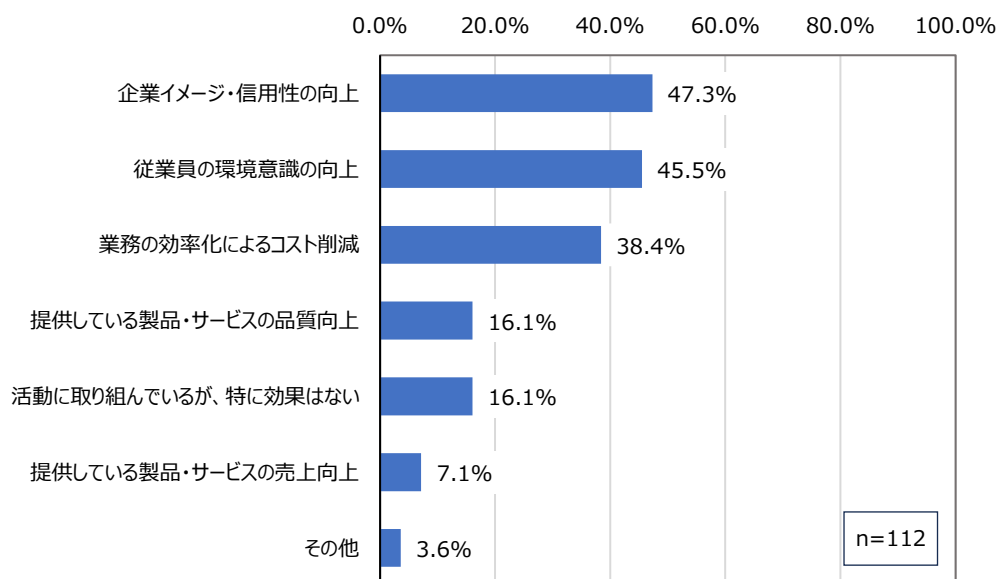
3-4 環境活動における効果と課題について

(1) 環境活動で得られた効果

問9 貴事業所が、環境活動に取り組んだことで得られた効果は何ですか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境活動で得られた効果を聞いたところ、「企業イメージ・信用性の向上（47.3%）」が最も多く、次いで、「従業員の環境意識の向上（45.5%）」、「業務の効率化によるコスト削減（38.4%）」となっています。

「特に効果はなかった（16.1%）」は全体の2割未満の回答率となっています。



◆その他回答（抜粋）

- 電気代の削減
- 管理コストの削減、法令遵守
- 会員事業所が省エネ等対応してもらっていること

など

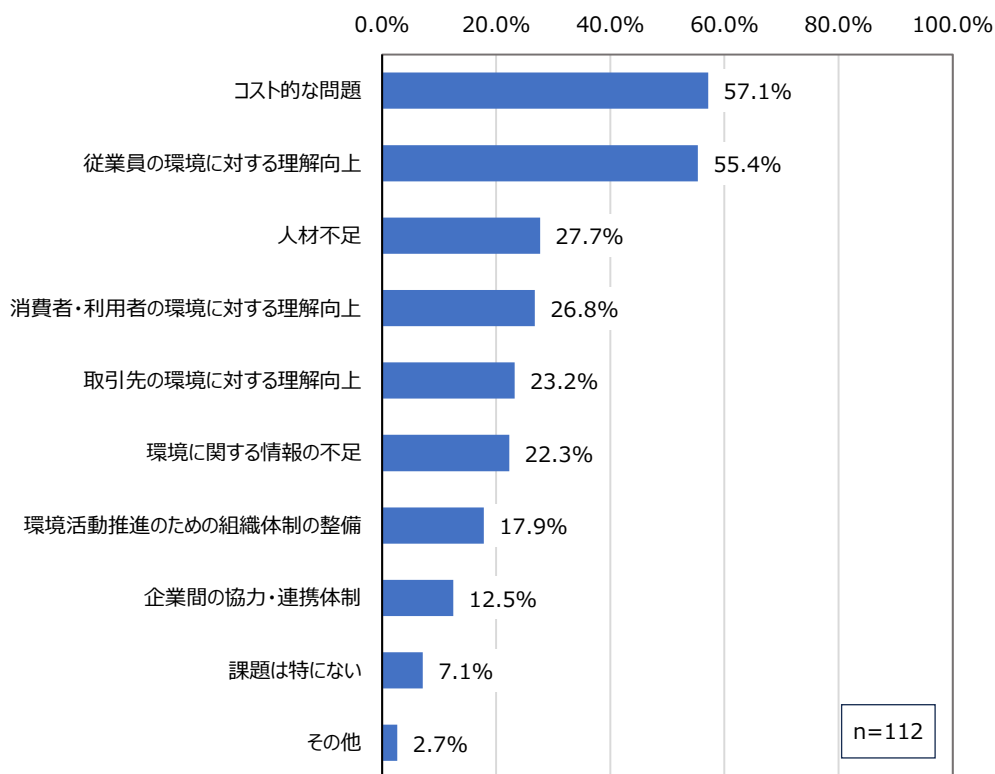
(2) 環境活動を進めるにあたっての課題

問10 貴事業所が、環境活動を進めるにあたり、どのようなことが課題であるとお考えですか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境活動に対する課題を聞いたところ、「コスト的な問題（57.1%）」と「従業員の環境に対する理解向上（55.4%）」で5割以上の回答率となりました。

このほか、「人材不足（27.7%）」、「消費者・利用者の環境に対する理解向上（26.8%）」、「取引先の環境に対する理解向上（23.2%）」、「環境に関する情報の不足（22.3%）」が2割以上の回答率となっています。

その他の回答として、ビルオーナーの意識向上が挙げられており、本調査の回答者事業者の約半分が賃貸・テナントであることも踏まえ、ビル所有者と連携した建物の省エネ化など、対策を進めていくことが求められていることがうかがえます。



◆その他回答（抜粋）

○ビルオーナーの意識向上
○会社事業の特性上、省エネ以外にできることはない

など

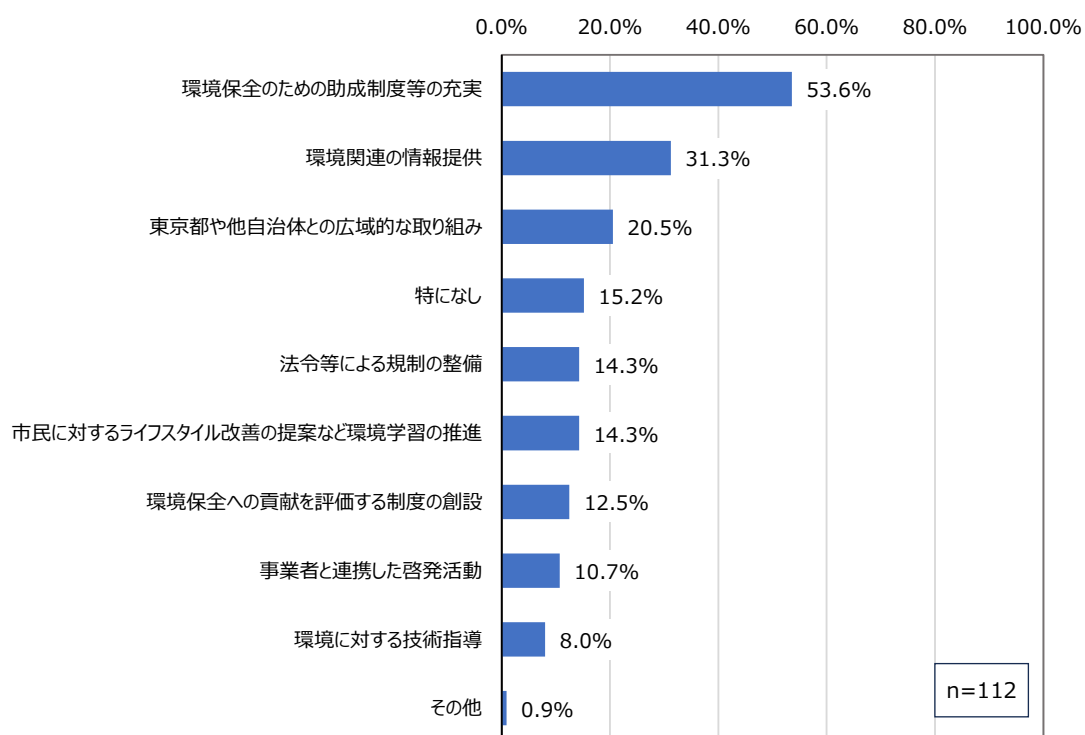
3-5 望ましい支援について

(1) 市が実施すると望ましいサポート

問 1 1 貴事業所において、環境活動を進めるにあたり、市が実施すると望ましいサポート等がありますか。あてはまる番号を3つまで○で囲んでください。

市が実施すると望ましいサポートについて聞いたところ、「環境保全のための助成制度等の充実（53.6%）」が最も多く、次いで、「環境関連の情報提供（31.3%）」、「東京都や他自治体との広域的な取り組み（20.5%）」となっています。

問 1 0 の環境活動を進めるにあたっての課題で最も回答率が高かったコスト的な問題と対応し、費用面でのサポートや情報提供の充実が求められていることがうかがえます。



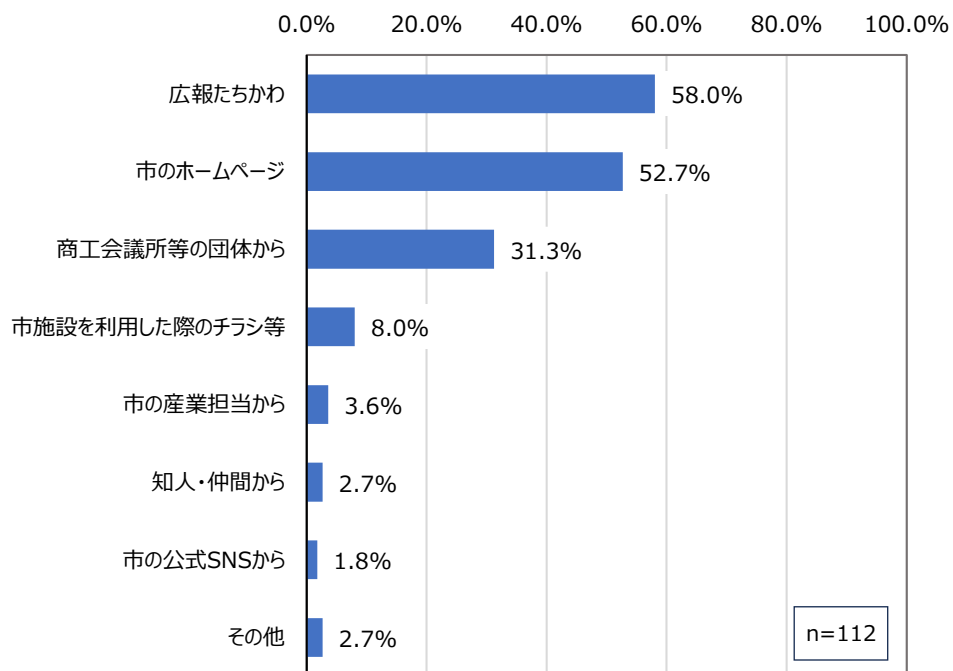
(2) 市の環境情報の入手方法

問12 貴事業所では、市の環境に関する情報をどのような方法で入手していますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

問13 貴事業所では、上記以外で入手しやすい方法がありますか。ご自由にご記入ください。

市の環境情報の入手方法を聞いたところ、「広報たちかわ（58.0%）」が最も多く、次いで、「市のホームページ（52.7%）」、「商工会議所等の団体から（31.3%）」となっています。

このほか、入手しやすい方法を聞いたところ、メールなど市から直接情報提供があるとよいなどが挙げられました。



◆その他入手しやすい方法（抜粋）

- 新しい情報はメール等で案内ほしい
- 市の担当者様より情報提供
- 他企業からの情報
- 電子メール(SNS は使用不可のため)

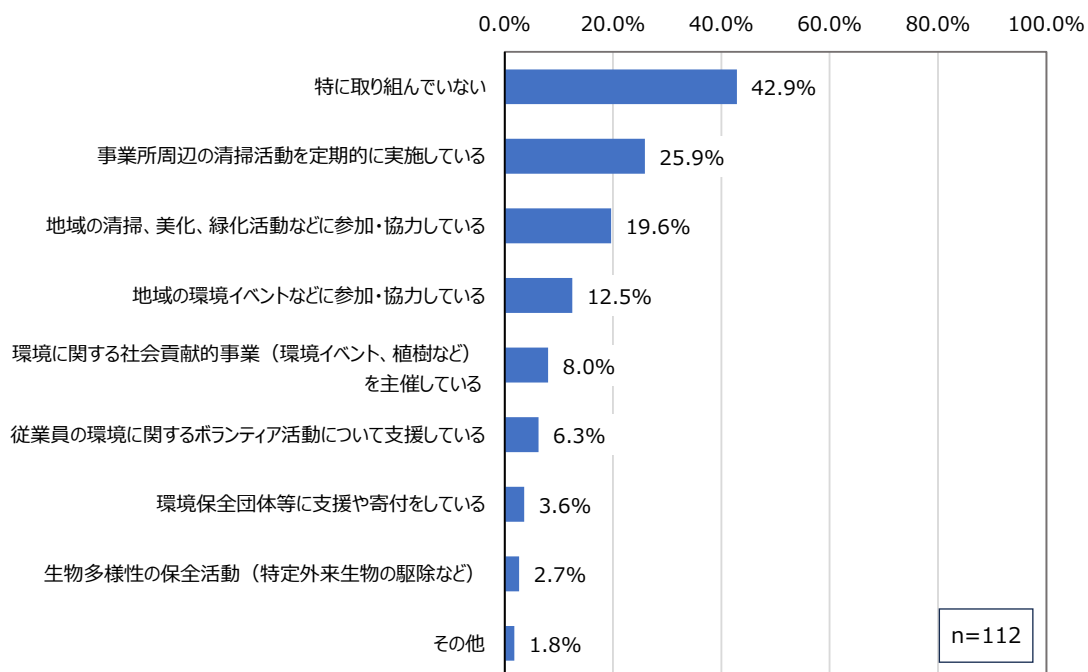
など

3-6 地域の環境活動について

(1) 取り組んでいる地域環境活動

問14 貴事業所では、地域の環境のためにどのような取組をしていますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

取り組んでいる地域の環境活動を聞いたところ、「特に取り組んでいない（42.9%）」が最も多く、次いで、「事業所周辺の清掃活動を定期的実施している（25.9%）」、「地域の清掃、美化、緑化活動などに参加・協力している（19.6%）」となっています。身近に取り組める清掃活動への参加が中心となっています。



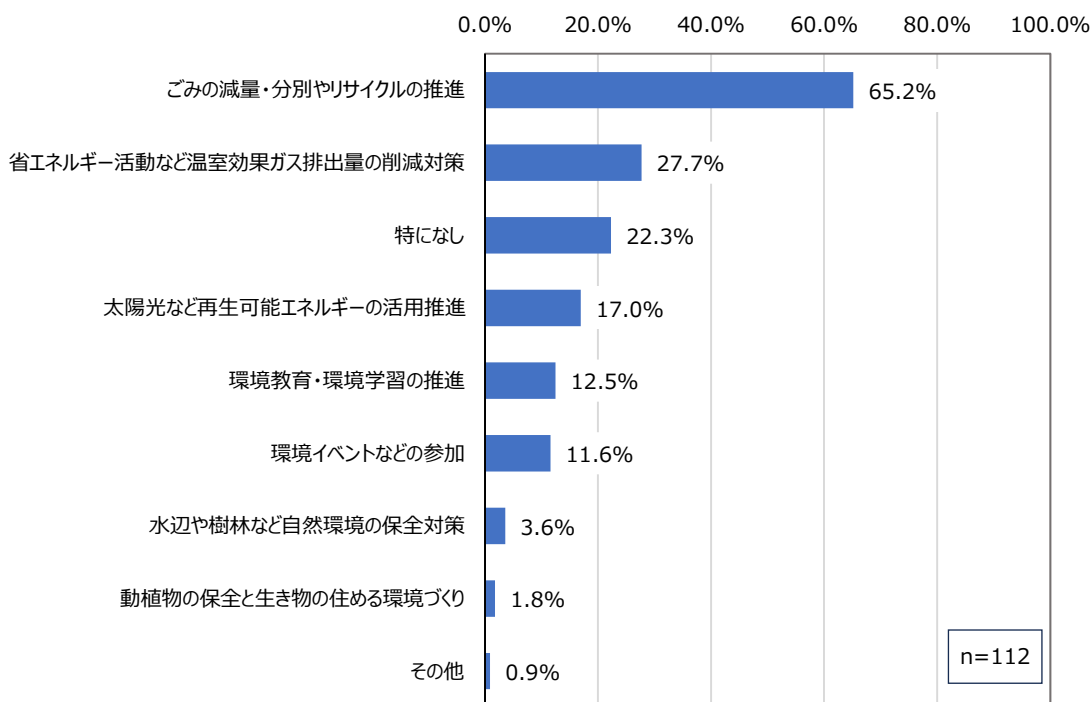
◆その他回答（抜粋）

○SDGs ツアーを企画
○市内はない など

(2) 協力、支援できる活動分野

問 15 貴事業所が、市に協力、支援できる環境に関する活動分野はありますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境に関する地域活動について、協力、支援できる活動分野を聞いたところ、「ごみの減量・分別やリサイクルの推進（65.2%）」が最も多く、次いで、「省エネルギー活動など温室効果ガス排出量の削減対策（27.7%）」となっています。3R の取組と地球温暖化対策が協力しやすい分野であることがうかがえます。



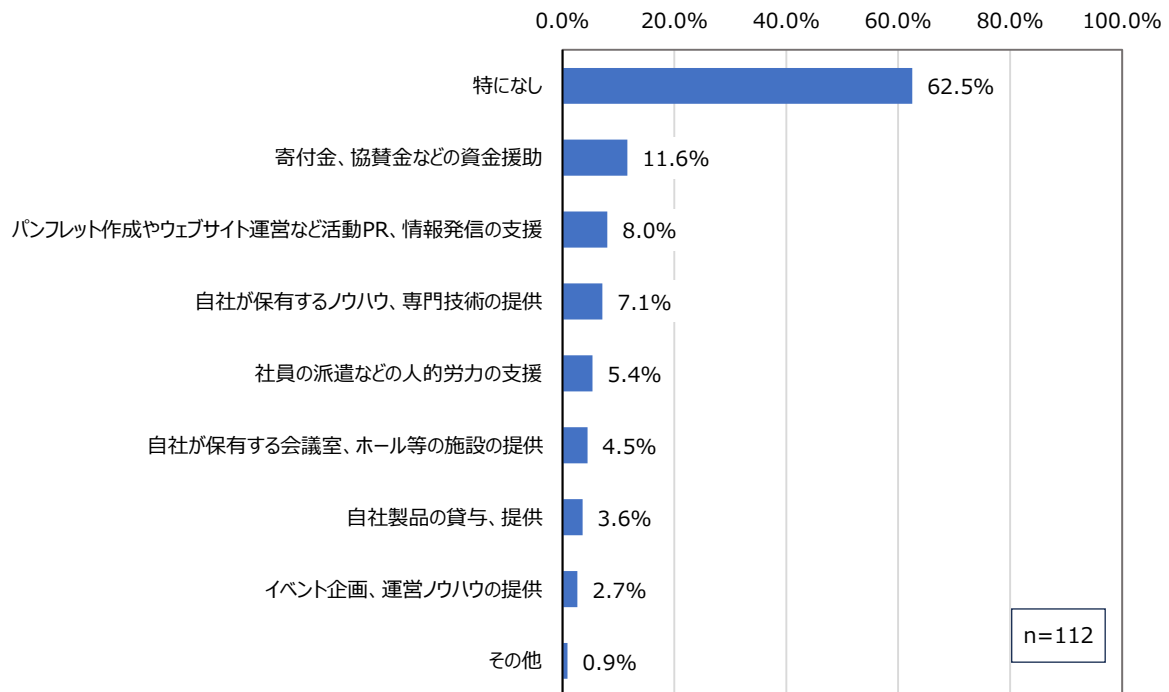
◆その他回答

○フードドライブ
○エコキャップ活動 など

(3) 協力、支援できる取組

問 1 6 貴事業所が、市に協力、支援できる環境に関する取組はありますか。あてはまる番号すべてを○で囲んでください。

環境に関する地域活動について、協力、支援できる取組を聞いたところ、「特になし(62.5%)」が半数以上となっていますが、「寄付金、協賛金などの資金援助(11.6%)」、「パンフレット作成やウェブサイト運営など活動PR、情報発信の支援(8.0%)」、「自社が保有するノウハウ、専門技術の提供(7.1%)」などの回答がありました。



◆その他回答

○フードドライブ

○エコキャップ活動

など

3-7 自由意見

最後に、環境に関わる意見等を自由記述形式で求めたところ、3社（2.7%）の事業所からの記入がありました。主な意見の概要を以下に示します。

意見の概要	分野
立川駅周辺の下水道管の老朽で、悪臭漂う箇所があるようです。早期点検し、工事をお願いしたい。	都市
個人でネズミ、ハクビシン、アライグマなどを捕獲した場合は、市で引き取ってほしい	自然
環境施策は、将来を考慮すると非常に大事な事だと思います。ただ、一般の方は、理解はすれど動かず、お金も使わない人が多いのが現状です。子供からの教育、大人への意識付け、会社としての促進の継続が大事です。立川市として、分かりやすい動画、YouTube活用等、コンパクトに分かりやすく、訴求を継続して欲しいです。	基盤的取組

4 調査結果のまとめ

これまでの集計結果について概要を、立川市第2次環境基本計画における環境の分野（「都市」、「自然」、「資源」、「地球温暖化」、「基盤的取組」）ごとに整理しました。

4-1 市民意識調査結果

分野	結果概要
1 都市	<ul style="list-style-type: none">●水のきれいさや安心した暮らしの重要度が高いものの満足度が低いことについては、PFASの問題や風水害等への懸念に起因すると考えられるため、適切な情報提供や国や東京都と連携した安全・安心に繋がる取組が求められている。●まちの美化に対する重要度が高い一方で、地域の清掃活動へ参加の意向はありながらも実際に参加している割合は低い。意識を行動に結び付ける仕組み作りが必要である。●不法投棄や草木の剪定、野焼きへの対応など、快適な生活環境の確保に向けた取組が求められている。
2 自然	<ul style="list-style-type: none">●将来の理想的な環境イメージの最上位が「自然や緑が豊かなまち」であり、将来に向けて残したい身近な自然や環境についても、国営昭和記念公園に限らず市内の多くの場所が挙げられており、自然や緑とにぎわいと調和が求められている。●市のシンボルとも言える国営昭和記念公園の存在は、公園等との親しみやすさの満足度重要度が比較的高い要因の一つであると考えられるが、地域の特性に合った公園づくりや緑地の保全などの、身近で日常的な取組も必要である。●生きものや農地、水辺等との親しみやすさは満足度重要度ともに比較的低いが、いずれも身近な自然を構成する要素であり、生物多様性にもつながることから、啓発による市民意識の向上が必要である。
3 資源	<ul style="list-style-type: none">●資源分別の取組は定着し、ごみ減量の取組の実施率も比較的高くなっているが、生ごみの水切りや食用油の処理方法といったひと手間必要な取組の実施率が低下しており、ごみ減量の目標やごみの適正な処理方法の周知・啓発を通じて、取組を拡げていく必要がある。●将来の理想的な環境イメージとしては中位ではあるものの、ごみ減量や資源の活用、リサイクルの満足度重要度は比較的高く、資源循環に向けた安定的・継続的な取組が求められている。

分野	結果概要
4 地球温暖化	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常的な省エネ行動の実施率は高く、LED やエコジョーズといった省エネ設備の導入率は上昇傾向にあり、脱炭素に向けてできることに着実に取り組んでいける機運を醸成することが必要である。 ● 住宅用太陽光発電システムなど、現段階では導入率が高くない機器もしくは設備であっても、5割以上が少なくとも関心は持っており、導入費用への支援や効果の明示などの課題への対応により、導入率の上昇や暮らしにおける省エネや再生エネルギーの活用の満足度の向上につなげていくことが求められている。 ● 「災害に強く安全に住み続けられるまち」が将来の理想的な環境イメージの上位に挙がっているものの、ハザードマップの確認や熱中症対策の実施率は6割程度に留まっており、身の安全の確保のために気候変動への適応を見据えた取組が必要である。
5 基盤的取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境問題に対する姿勢は約5割が積極的な傾向となっており、5年前から大きな増減は見られないため、市民一人一人が自分事として捉え、自主的に取り組むきっかけづくりが必要である。 ● 環境学習やまちの美化活動などへの参加率は高くないものの、5割近くが今後取り組みたい意向を持っている。参加に繋がりづらい要因として、活動自体を知らないことや時間的、心理的な制約も考えられることから、活動に関する情報発信の工夫が求められているとともに、気軽に参加できる機会の提供が求められている。 ● 市の環境情報の入手方法は、広報たちかわが約9割と圧倒的に高い。紙媒体で全戸配布しており、興味関心の有無にかかわらず目にすることが理由と考えられるため、アプリを活用したプッシュ型の情報提供の仕組みや、駅や商業施設と協力するなど、普段の生活の中で環境についての情報に触れる機会を充実することが求められている。

4-2 事業者意識調査結果

分野	結果概要
1 都市	<ul style="list-style-type: none"> ● 大気・排水・騒音・悪臭・光害などの取組については、実施率が約2割程度となっているが、業種により該当しないケースが多く、また事業者の法令順守の意識の向上を受けて、必要な対応は実施されていると考えられる。 ● 清掃活動や地域の美化活動、地域の環境イベントへの参加など、地域の環境活動への参加率は高くないものの、事業者としても取り組みやすい活動であることから、協働による取組に結び付ける働きかけが必要である。
2 自然	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑化や生物多様性に関連する取組については、約5割がテナントであることも背景にあり、事業者としての取組機会が少ないことがうかがえる。生物多様性基本法には事業者の責務が明記されており、今後、国内外から生物多様性保全に取組に関連する要請が増えていくことも想定され、地域と連携した取組や自然環境保全対策への協力などが期待される。
3 資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物の適正処理や節水の実施、不用品の資源回収の実施率は高いものの、食品ロスやプラスチックごみへの対応といった新たな法令に関連する取組の実施率は向上の余地があると考えられ、啓発や指導等により事業者や従業員の行動変容を促すことが必要である。 ● 協力、支援できる活動分野としてごみの減量等が約7割となっていることから、ごみの減量目標を共有した取組の推進や、事業者と連携・協力した資源循環のしくみの構築などが期待される。
4 地球温暖化	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネの取組の実施率は約8割と高く、コスト削減への期待も大きいことから、省エネ診断や再エネ電力の切り替えなど、もう一步踏み込んだ取組の周知と理解促進が必要である。 ● 導入には至っていない温暖化対策設備機器やEV等についても、一定の関心はある事業者は少なくないことから、国や都の補助制度や支援策の周知を図ることなどを通じて、導入の拡大が期待される。 ● 国が2050年のカーボンニュートラルを目標に掲げたこともあり、協力、支援できる分野として温室効果ガスの削減を挙げる事業者が約3割となっている。市としてもロードマップを示し、市民、事業者、市が一体となって、地域の温室効果ガスの削減を推進する必要がある。

分野	結果概要
5 基盤的取組	<ul style="list-style-type: none"> ●環境活動の効果の最上位が企業イメージ等の向上であるが、製品・サービスの品質や売上の向上、新しいビジネスチャンスなど、企業経営視点で環境を捉える意識が高まりつつある。 ●社内での研修は約5割が実施または予定しているが、一方で環境活動を進めるにあたっての課題として、従業員の環境に対する理解向上、人材不足を挙げる事業者も多い。業種に関わらず幅広く取り組めるものとして、周知と理解促進が必要である。 ●助成などのコスト的な支援に加え、事業者向けの情報提供、東京都等との広域的な取組といった部分の充実が望まれており、事業者の具体的なニーズの的確な把握と施策への反映が求められている。 ●協力・支援できる取組としては、約6割が特になしとしているものの、寄付金等の資金援助のほかPRや情報発信の支援などに対する回答もあり、協働・連携を進めることで事業者と市がWin-Winの関係を構築していくことが期待される。